

HP Universal CMDB

Windows および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン : 9.03

管理ガイド

ドキュメント・リリース日 : 2011 年 2 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2011 年 2 月 (英語版)



利用条件

保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限りです。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

著作権

© Copyright 2005 - 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P

商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD の矢印記号は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Google™ および Google™ マップは、Google Inc. の商標です。

Intel®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle およびその関連企業の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

確認

- この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/licenses> (英語サイト)) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

- この製品には、OpenLDAP Foundation (<http://www.openldap.org/foundation/> (英語サイト)) の OpenLDAP コードが含まれています。
- この製品には、Free Software Foundation, Inc. (<http://www.fsf.org/>) の GNU コードが含まれています。
- この製品には、Dennis M. Sosnoski の JiBX コードが含まれています。
- この製品には、ディストリビューションの一部で JiBX 全体で使用される、インディアナ大学 Extreme!Lab が含まれます。
- この製品には、Robert Futrell (<http://sourceforge.net/projects/officeInfs> (英語サイト)) の Office Look and Feels ライセンスが含まれています。
- この製品には、Netaphor Software, Inc. (<http://www.netaphor.com/home.asp> (英語サイト)) の JEP (Java Expression Parser) コードが含まれています。

文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用するには、次の URL にアクセスしてください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログイン・ページの [New users - please register] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは、次の場所にあります。

<http://support.openview.hp.com/>

この Web サイトでは、連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HP ソフトウェア・オンライン・ソフトウェア・サポートでは、お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトの次の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

ようこそ.....	11
本書の構成.....	11
対象読者.....	12
HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント.....	12
その他のオンライン・リソース.....	15
ドキュメントの更新.....	16

第 I 部 : はじめに

.....	17
第 1 章 : 構成管理データベース (CMDB).....	19
CMDB の概要.....	20
構成アイテム (CI).....	21
クエリ・ノードと関係.....	21
UCMDB ログ・レベルの設定.....	22
ログ・ファイルとスレッド・ダンプを含んだ zip ファイルの ダウンロード.....	22
CMDB ログ・ファイル.....	24
データ・フロー管理ログ・ファイル.....	30
ログの重大度レベル.....	32
CMDB のユーザ・インタフェース.....	33
第 2 章 : ログインのトラブルシューティング.....	41
トラブルシューティングおよび制限事項.....	42

第 II 部 : 管理

第 3 章 : インフラストラクチャ設定マネージャ.....	47
インフラストラクチャ設定マネージャの概要.....	48
インフラストラクチャ設定マネージャのユーザ インタフェース.....	49

第 4 章：パッケージ・マネージャ	53
パッケージ管理の概要.....	54
パッケージの zip ファイルの内容と形式.....	56
インテグレーション・アダプタのパッケージ.....	57
カスタム・パッケージの作成.....	58
パッケージのデプロイ.....	59
パッケージのエクスポート.....	60
ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックの インストール.....	60
JMX コンソールを使用したパッケージ・マネージャ・タスクの実行...	61
パッケージのリソース.....	66
リソース・タイプ.....	69
パッケージ・マネージャのユーザ・インタフェース.....	71
トラブルシューティングと制限事項.....	87
第 5 章：状態マネージャ	89
状態マネージャの概要.....	90
状態の定義.....	91
状態マネージャのユーザ・インタフェース.....	92
第 6 章：スケジューラ	95
定期的にアクティブ化されるタスクの定義.....	96
スケジューラのユーザ・インタフェース.....	98

第 III 部：ユーザの設定および使用

第 7 章：ユーザとロール	109
ユーザとロールの概要.....	110
ユーザおよびロールの設定.....	111
ユーザのパスワードの変更.....	112
[ユーザとロール] のユーザ・インタフェース.....	113
トラブルシューティングと制限事項.....	120
第 8 章：ユーザ・プロフィール	121
ユーザ・プロフィールの概要.....	122
ユーザ・プリファレンスの定義.....	123
[ユーザプロフィール] のユーザ・インタフェース.....	124
第 9 章：セキュリティ・マネージャ	125
セキュリティ・マネージャの概要.....	126
セキュリティの設定.....	127
アクセス権の割り当て.....	127
セキュリティ・マネージャのユーザ・インタフェース.....	128

第 10 章 : 受信者マネージャ	135
受信者マネージャの概要.....	136
電子メール受信者の定義.....	137
受信者マネージャのユーザ・インタフェース	138
第 11 章 : LDAP マッピング.....	141
LDAP マッピングの概要.....	142
HP Universal CMDB ユーザ・ロールと LDAP グループとの同期化...143	
Active Directory の LDAP の設定.....	146
LDAP マッピングのユーザ・インタフェース.....	148
第 IV 部 : CI ライフサイクル	
第 12 章 : CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム	153
エイジング・メカニズムの概要	154
CI ライフサイクルの概要	155
エイジング・メカニズムの有効化と実行	156
CI ライフサイクル・データの生成と結果のフィルタ	158
複数のプローブでの手動負荷分散の有効化.....	159
CI ライフサイクルのユーザ・インタフェース	160
エイジングのパラメータ.....	168
第 V 部 : HP UNIVERSAL CMDB 用語集	
第 13 章 : 用語集.....	171
索引	181

ようこそ

本ガイドでは、HP Universal CMDB を設定する方法について説明します。

本章の内容

- ▶ 本書の構成 (11 ページ)
- ▶ 対象読者 (12 ページ)
- ▶ HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント (12 ページ)
- ▶ その他のオンライン・リソース (15 ページ)
- ▶ ドキュメントの更新 (16 ページ)

本書の構成

本書は、次の各章で構成されています。

第 I 部 はじめに

データ・フロー管理プロセスおよびさまざまなサードパーティのアプリケーションやツールによって収集された構成情報の中央リポジトリである、CMDB について説明します。ログインに関するトラブルシューティングを提供します。

第 II 部 管理

HP Universal CMDB の設定方法、パッケージ (データ・フロー管理で必要とされるリソースを含む) のデプロイ方法、および定期的にアクティブ化されるタスクのスケジュールを定義する方法について説明します。

第 III 部 ユーザの設定および使用

ユーザとロールの設定方法，およびアプリケーションのコンポーネントを使用するための権限をロールに割り当てる方法について説明します。ビジネス環境の特定のリソースおよびリソース・インスタンスにアクセスするための権限をユーザとユーザ・グループに割り当てる方法について説明します。

第 IV 部 CI ライフサイクル

エイジング・メカニズムによる削除の候補になっている CI と関係のリストの表示方法，およびエイジング手順の開始方法について説明します。

第 V 部 HP Universal CMDB 用語集

HP Universal CMDB 用語集のリストです。

対象読者

本書は，次の利用者を対象としています。

- ▶ HP Universal CMDB 管理者
- ▶ HP Universal CMDB プラットフォーム管理者
- ▶ HP Universal CMDB アプリケーション管理者
- ▶ HP Universal CMDB データ・コレクタ管理者

本書の読者は，エンタープライズ・システム管理に精通し，ITIL の概念を理解していること，そして HP Universal CMDB についての知識を備えている必要があります。

HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント

HP Universal CMDB には，次のオンライン・ドキュメントが含まれています。

Readme : バージョンの制限事項および最終更新のリストが表示されます。HP Universal CMDB DVD のルート・ディレクトリから，**readme.html** をダブルクリックします。HP ソフトウェア・サポート Web サイトからも，最新の Readme ファイルにアクセスできます。

新機能：新機能およびバージョンの重要項目のリストが表示されます。
HP Universal CMDB で、[ヘルプ] > [新機能] を選択します。

印刷用ドキュメント：[ヘルプ] > [UCMDB ヘルプ] を選択します。次のガイドは、PDF 形式でのみ提供されています。

- ▶ 『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(PDF)：HP Universal CMDB の設定に必要なハードウェアおよびソフトウェア要件、HP Universal CMDB のインストールまたはアップグレード方法、システムのセキュリティを強化する方法、およびアプリケーションへのログイン方法について説明します。
- ▶ 『HP Universal CMDB データベース・ガイド』(PDF)：HP Universal CMDB で必要とされるデータベース (MS SQL Server または Oracle) の設定方法について説明します。
- ▶ 『HP Universal CMDB Discovery and Integration Content Guide』(PDF)：ディスクバリエーションを実行して、システムで実行されているアプリケーション、オペレーティング・システム、およびネットワーク・コンポーネントを検出する方法について説明します。統合によってほかのデータ・リポジトリにあるデータを検出する方法についても説明します。

HP Universal CMDB オンライン・ヘルプの内容は次のとおりです。

- ▶ **モデリング**：IT ユニバース・モデルのコンテンツを管理できます。
- ▶ **データ・フロー管理**：HP Universal CMDB をほかのデータ・リポジトリと統合する方法、およびネットワーク・コンポーネントを検出するように HP Universal CMDB を設定する方法について説明します。
- ▶ **UCMDB 管理**：HP Universal CMDB で作業する方法について説明します。
- ▶ **開発者向けリファレンス**：HP Universal CMDB について高度な知識を持つユーザを対象としています。アダプタを定義して使用する方法、および API を使用してデータにアクセスする方法について説明します。

オンライン・ヘルプは、HP Universal CMDB の個別のウィンドウからも利用できます。ウィンドウをクリックして [ヘルプ] ボタンをクリックします。



オンライン・ブックは Adobe Reader を使用して表示および印刷できます。Adobe Reader は Adobe Web サイトからダウンロードできます (<http://www.adobe.com/jp/>)。



トピックの種類

このガイドでは、各サブジェクト領域はトピックに分類されています。トピックには、サブジェクトの個別の情報モジュールが含まれています。トピックは通常、含まれる情報のタイプに従って分類されます。

ドキュメントは異なる状況で必要となるさまざまな情報タイプに分割されており、特定情報にアクセスしやすいように設計されています。

使用されている主なトピックの種類は、**概念**、**タスク**、および**参照先**の3つです。これらのトピックの種類は、アイコンで視覚的に分かりやすく分類されています。

トピックの種類	説明	使用法
概念 	背景、説明、または概念的な情報。	機能に関する一般情報について学習します。
タスク 	<p>手順タスク：アプリケーションを使用して目標を達成するための手順が、順を追って説明されています。一部のタスクの手順には、サンプル・データを使用した例が含まれます。</p> <p>タスクの手順は、番号が付いている場合と付いていない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 番号付きの手順：各手順を連続した順序で行うことで実行するタスクです。 ▶ 番号が付いていない手順：任意の順序で実行できる、自己充足型の操作のリストです。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ タスクの全体的なワークフローについて学習します。 ▶ 番号が付いているタスクのリストにある手順に従って、タスクを実行します。 ▶ 番号が付いていないタスクの手順を完了することで、独立した操作を実行します。
	<p>使用例シナリオ・タスク：特定の状況でタスクを実行する方法の例です。</p>	現実的なシナリオでタスクを実行する方法を学習します。

トピックの種類	説明	使用法
参照先 	一般的な参照情報 ：参考資料に関する詳細なリストおよび説明です。	特定のコンテキストに関連する参照情報を検索します。
	ユーザ・インタフェース参照情報 ：特定のユーザ・インタフェースを詳細に説明した参照情報トピックです。通常、製品の [ヘルプ] メニューから [このページのヘルプ] を選択すると、ユーザ・インタフェースのトピックが開きます。	入力内容またはウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなど特定のユーザ・インタフェース要素の使用方法に関する個別の情報を検索します。
トラブルシューティングおよび制限事項 	トラブルシューティングおよび制限事項 ：よく発生する問題および解決策について説明し、機能または製品領域の制限事項のリストを表示する参照情報トピックです。	機能を使用する前に、またはソフトウェアでユーザビリティに関する問題に遭遇した場合に、重要な問題に対する意識を高めます。

その他のオンライン・リソース

[**トラブルシューティングとナレッジ ベース**] を選択すると、HP ソフトウェアのサポート Web サイトのトラブルシューティング・ページが開き、セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[ヘルプ] > [**トラブルシューティングとナレッジ ベース**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

[**HP ソフトウェア サポート**] を選択すると、HP ソフトウェアのサポート Web サイトが開きます。このサイトでは、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの参加と検索、サポート要求の送信、パッチやアップデートされたドキュメントのダウンロードなども行うことができます。[ヘルプ] > [**HP ソフトウェア サポート**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport> です。

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ユーザ ID の登録は、次の URL にアクセスしてください。

<https://passport2.hp.com/hppcf/createuser.do?>

[**HP ソフトウェアの Web サイト**] を選択すると、HP ソフトウェアの Web サイトが開きます。このサイトには、HP ソフトウェア製品の最新情報が表示されます。新規ソフトウェア・リリース、セミナーおよび製品発表会、カスタマ・サポートなどの情報が含まれます。[ヘルプ] > [**HP ソフトウェアの Web サイト**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://www.hp.com/go/software> です。

ドキュメントの更新

HP ソフトウェアの製品ドキュメントは、新しい情報で絶えず更新されています。

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、HP ソフトウェア製品マニュアルの Web サイト (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>) にアクセスしてください。

第Ⅰ部

はじめに

1

構成管理データベース（CMDB）

本章の内容

概念

- ▶ CMDB の概要 (20 ページ)
- ▶ 構成アイテム (CI) (21 ページ)
- ▶ クエリ・ノードと関係 (21 ページ)

タスク

- ▶ UCMDB ログ・レベルの設定 (22 ページ)
- ▶ ログ・ファイルとスレッド・ダンプを含んだ zip ファイルのダウンロード (22 ページ)

参照先

- ▶ CMDB ログ・ファイル (24 ページ)
- ▶ データ・フロー管理ログ・ファイル (30 ページ)
- ▶ ログの重大度レベル (32 ページ)
- ▶ CMDB のユーザ・インタフェース (33 ページ)

概念

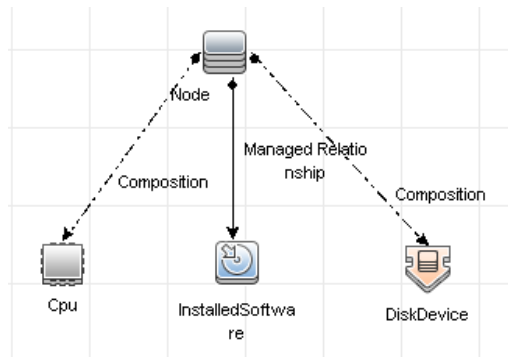
CMDB の概要

CMDB は、データ・フロー管理 (DFM) プロセスおよびさまざまなサードパーティのアプリケーションやツールによって収集された、構成情報の中央リポジトリです。

CMDB には、DFM プロセスによって自動的に作成されたか、手作業で挿入されたかにかかわらず、HP Universal CMDB で作成されたあらゆる構成アイテム (CI) と関係が収められます。CI と関係の組み合わせは、ビジネスを取り巻く IT ユニバースのすべてのコンポーネントのモデルを表します。IT ユニバース CMDB では、DFM プロセスによって収集および更新されたインフラストラクチャ・データの格納と処理が行われます。DFM プロセスの詳細については、『HP Universal CMDB Discovery and Integration Content Guide』(PDF) を参照してください。

IT ユニバース・モデルは、数百万の CI を含む非常に大きなものになる可能性があります。これらの管理を容易にするために、IT ユニバース世界の全体的なコンポーネントのサブセットを提供するビューの中で CI を操作します。

ファクトリ・ビュー、またはモデリング・スタジオで定義されているビューを使用して、CMDB の CI と関係の表示および管理を行います。ビューにより、特定の IT 領域に焦点を当てることができます。また、ビューは CI の選択を通じて使用できます。次の図にビューの例を示します。



CMDB には、ビュー内での表示のために、CMDB からのデータの問い合わせと取得に使用される TQL クエリ定義と、CI と関係の定義に使用される CI タイプのリポジトリである構成アイテム・タイプ (CIT) モデルも含まれています。TQL クエリの詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「トポロジ・クエリ言語 (TQL)」を参照してください。

構成アイテム (CI)

構成アイテム (CI) は、システム内の物理エンティティまたは論理エンティティを表す CMDB のコンポーネントです (ハードウェア、ソフトウェア、サービス、ビジネス・プロセス、カスタマなど)。CI は、CMDB 内の IT ユニバース・モデルの一部であり、組織の IT 環境内での相互依存関係に基づいて、IT ユニバース・モデル内で階層化されています。このような相互依存関係は、HP Universal CMDB では「関係」と呼ばれています。

CI はそれぞれ 1 つの構成アイテム・タイプ (CIT) に所属しています。CIT は、HP Universal CMDB で使用される CI のカテゴリを定義します。CIT は、CI とそれに関連付けられたプロパティを各カテゴリ内に作成するためのテンプレートを提供します。CMDB 内の CI の表示と管理には、ビューを使用します。各ビューは IT ユニバース・モデルの一部に焦点を当てます。

クエリ・ノードと関係

クエリ・ノードとは、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、およびモデリング・スタジオ内で TQL クエリを構築するコンポーネントです。

関係とは、CI 間に定義された接続です。関係は、TQL クエリ内のクエリ・ノードのペアごとに、一度に 1 つずつ定義されます。

タスク

UCMDB ログ・レベルの設定

このタスクでは、UCMDB ログ・ファイルのログ・レベルの指定方法について説明します。

- 1 UCMDB サーバで Web ブラウザを起動し、次のアドレスを入力します。
http://localhost:8080/jmx-console
ユーザ名とパスワードでのログインが必要な場合もあります。
- 2 **UCMDB : service=Server Services** をクリックして、JMX MBEAN View ページを開きます。
- 3 **loggersLevels** メソッドを見つけます。
- 4 **[Invoke]** をクリックします。
- 5 レベルを設定する各ログ・ファイル名の横にあるリストから、該当するログレベルを選択します (OFF, FATAL, ERROR, WARN, INFO, DEBUG, TRACE, または ALL)。
- 6 **[Update loggers]** をクリックします。

ログ・ファイルとスレッド・ダンプを含んだ zip ファイルのダウンロード

すべてのログとスレッド・ダンプを含む zip ファイルを作成できます。作成するには、クライアント・マシン上で JMX 操作を行うか、UCMDB サーバ上でバッチ・ファイルを実行します。

スレッド・ダンプは定期的に作成され、1 分に一度、スレッド・ダンプのスナップショットが撮られて、

C : %hp%\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log\threadDumps フォルダで新しいファイルに保存されます。保持されるスレッド・ダンプ・ファイルは、直近の 1 時間以内のもので、このフォルダには、**logGrabber** 実行時に生成された、サーバの一時的なスナップショットも保存されます。

クライアント・マシンで zip ファイルを生成するには、次の手順で行います。

- 1 Web ブラウザを起動し、サーバ・アドレスに **http://<UCMDB サーバのホスト名または IP>: 8080/jmx-console** を入力します。

ユーザ名とパスワードでのログインが必要な場合もあります。

- 2 UCMDB の下の **UCMDB : service=Server services** をクリックして、JMX MBEAN View ページを開きます。

- 3 **executeLogGrabber** 操作を見つけます。

- 4 **[Invoke]** をクリックします。

LogGrabber_serverSnapshot_<現在の日時>.txt という名前のサーバ・スナップショット・ファイルが、

C : %hp%UCMDB%UCMDBServer%runtime%log%threadDumps に作成されます。これは、サーバ・フレームワークのスレッドだけを含むスレッド・ダンプです。

- 5 **[ファイルのダウンロード]** ダイアログ・ボックスで、**logGrabber_<現在の時刻>.zip** ファイルを開くか、そのファイルをクライアント・マシンにダウンロードします。

UCMDB サーバで zip ファイルを生成するには、次の手順で行います。

- 1 UCMDB サーバで、**C : %hp%UCMDB%UCMDBServer%tools%logGrabber%** フォルダにアクセスします。

- 2 **logGrabber.bat** ファイルを実行します。

LogGrabber_serverSnapshot_<現在の日時>.txt という名前のサーバ・スナップショット・ファイルが、

C : %hp%UCMDB%UCMDBServer%runtime%log%threadDumps に作成されます。これは、サーバ・フレームワークのスレッドだけを含むスレッド・ダンプです。

参照先

CMDB ログ・ファイル

CMDB ログ・ファイルを使用すると、CMDB 実行時の問題に対して基本的なトラブルシューティングを実行できます。また、ログ・ファイルを見て CMDB の動作を追跡することにより、システムに加えた変更の影響を検討することもできます。CMDB はサブシステムで構成されており、各サブシステムは複数のログ・ファイルに記録を残します。

ログ・ファイルは、**C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log** フォルダに保存されます。

本項の内容

- ▶ 24 ページの「クォータ・ログのパラメータ」
- ▶ 25 ページの「CI タイプ・モデル・ログ」
- ▶ 26 ページの「CMDB 通知ログ」
- ▶ 27 ページの「CMDB モデル監査簡略ログ」
- ▶ 27 ページの「履歴データベース ログ」
- ▶ 28 ページの「CMDB エンリットメント・ログ」
- ▶ 29 ページの「CMDB プラグイン・ログ」
- ▶ 29 ページの「CMDB DAL ログ」
- ▶ 30 ページの「CMDB 操作統計ログ」

クォータ・ログのパラメータ

ログ名は **cmdb.quota.log** です。

ログ・ファイル	説明
目的	クォータ名、クォータ値、および現在のクォータ・レベルです。
情報レベル	カスタマの読み込み時にサーバおよびカスタマ・レベルで設定されたクォータ名とクォータ値。

ログ・ファイル	説明
エラー・レベル	クォータ制限値を超えたために失敗した CMDB 操作。
デバッグ・レベル	カウント・コレクタが n 分ごとに実行され、すべてのクォータについて現在のカウントを収集します。収集されたカウントはログに記録されます。
基本的なトラブルシューティング	クォータ制限が原因で操作が失敗した場合は、カウントの増え方とクォータ値をチェックします。

CI タイプ・モデル・ログ

ログ名は `cmdb.classmodel.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	CI タイプ・モデル・エラーとデバッグ・メッセージです。
情報レベル	CI タイプ・モデルが読み込まれるときに、不正確な定義が情報メッセージとしてログに書き込まれます。不正確な定義の例は、 重複した属性 を持った定義などです。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	CI タイプの更新には、次のものが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 元の CIT (XML 形式)。 ▶ 新しい CIT (XML 形式)。 ▶ 2 つの CIT の相違点。 CI タイプ・モデルの更新が拒否された場合は、その理由がログに記録されます。
基本的なトラブルシューティング	サーバが元の CIT と新しい CIT の間で認識した相違点を比較します。これは、次のシナリオを理解するのに役立ちます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ パッケージ内の CIT が失敗した。 ▶ CIT ブラウザ・アプレット内のアクションが失敗した。 ▶ CIT ブラウザ内でのアクションが、失敗するはずなのに成功した。

CMDB 通知ログ

ログ名は `cmdb.notification.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	<p>CMDB におけるコンポーネントの作成時から、クライアントのリスナがメッセージを受信するまでの間の通知メッセージです。</p> <p>ほとんどのコンポーネントは通知メカニズムによって、プル・モードではなくプッシュ・モードで CMDB から設定の変更を受信します。</p>
情報レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 発行元の起動とシャットダウン。 ▶ リモート・リスナおよび内部リスナの登録と登録解除。
エラー・レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メッセージ発行時のエラー。 ▶ メッセージ受信時のエラー。
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 一意のメッセージ ID。 ▶ メッセージに含まれる変更の数と、メッセージのタイプに従った詳細 (TQL 結果のバージョンなど)。 ▶ JMS ヘッダのプロパティ。
基本的なトラブルシューティング	<p>アプリケーションが通知を受信しない場合は、次のことをチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リスナが適切な通知フィルタに登録されているかどうか。 ▶ メッセージがそのフィルタと一致するデータとともに発行されたかどうか。 ▶ リスナがメッセージを受信したかどうか (一意のメッセージ ID を使用して検証)。

CMDB モデル監査簡略ログ

ログ名は `cmdb.model.audit.short.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	CI タイプの操作に関する情報（操作の種類、入力として受け取ったデータ、各 CIT でデータに対して何が発生したか）です。 また、呼び出し側アプリケーション、実行時間、持続時間に関する情報も格納されます。
情報レベル	操作の詳細。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	利用不可。
基本的なトラブルシューティング	何か変化があるべきなのに何の変化もない場合は、次のことをチェックします。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 操作が存在するかどうか。 ▶ 入力が正しいかどうか。 ▶ データに何が起こったか。偽の更新が発生した可能性があります。 これは、DFM を実行して入力を追跡しているときに特に有用です。

履歴データベース ログ

ログ名は `cmdb.history.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 履歴データベースが既存のトポロジから初期化されたときに見つかった CIT を記録します。 ▶ 何が履歴データベースに保存されるかを記録します。 ▶ 履歴データベースに保存されたイベントを追跡します。 ▶ 履歴データベースがいつパージされたかを記録します。
情報レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 最後のパージがいつ実行されたか。 ▶ 履歴データベースの初期化に関する情報。

ログ・ファイル	説明
エラー・レベル	イベント情報が履歴データベースに挿入されたときに発生したエラーが記録されます。
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 履歴データベースの初期化時に挿入された CIT の詳細。 ▶ 履歴データベースに保存された TQL 結果の変化に関する詳細。

CMDB エンリッチメント・ログ

ログ名は `cmdb.enrichment.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エンリッチメント定義（追加，更新，削除，および計算）です。 ▶ 追加された CI の数，削除された関係の数などの計算結果です。 ▶ 計算の失敗の原因を提供します。ただし，モデルの更新は非同期実行なので，更新における失敗はこのログには含められません。
情報レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エンリッチメント定義の追加，更新，削除。 ▶ CI または関係の，モデルに対する追加，更新，削除。
エラー・レベル	計算の失敗
デバッグ・レベル	エンリッチメント計算プロセスを追跡。
基本的なトラブルシューティング	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 計算がまったく実行されなかった場合は，add enrichment の定義をチェックします。 ▶ 結果がまったく存在しない場合は，finish calculate エントリをチェックします。

CMDB プラグイン・ログ

ログ名は `cmdb.plugins.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	プラグイン入力および出力の通知です。
情報レベル	発行元のライフサイクル。
エラー・レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ カスタマ ID 内にカスタマ名が存在しない ▶ 発行元の障害
デバッグ・レベル	変更の受信または送信。
基本的なトラブルシューティング	通知が宛先に届かない場合は、プラグインが入力を受け取ったかどうかをチェックします。

CMDB DAL ログ

ログ名は `cmdb.dal.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	データ・アクセス・レイヤ (CMDB と連携するレイヤ) で発生した活動に関する情報です。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 接続プール・エラー ▶ データベース・エラー ▶ コマンド実行エラー
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 実行されたすべての DAL コマンド ▶ 実行されたすべての SQL コマンド
基本的なトラブルシューティング	<p>CMDB の動作に時間がかかりすぎると感じる場合は、DAL ログと操作ログで、クエリと更新に費やされた時間をチェックします。</p> <p>例外の詳細と ID がログに記録されます。例外 ID は例外自体の中に表示されます。</p>

CMDB 操作統計ログ

ログ名は `cmdb.operation.statistics.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	最低の操作インスタンスを含む、過去 15 分間に実行されたすべての操作の統計です。
情報レベル	操作のクラス名、呼び出し側アプリケーション、およびカスタム ID を含む操作ごとの統計です。 標準設定は最下位から 10 の操作インスタンスです。
エラー・レベル	統計機能の無効化。
デバッグ・レベル	利用不可。
基本的なトラブルシューティング	パフォーマンスが低下した場合にチェックします。

データ・フロー管理ログ・ファイル

サーバ・ログ・ファイルには、エラー・メッセージを含む、サーバ側で発生したサーバ動作に関する情報が格納されます。

mam.AutoDiscovery.log

サーバで実行されているタスクに関する情報が格納されます。サーバは、ジョブのアクティブ化、プローブからの結果の処理、プローブのタスクの作成などのサービスを、ユーザ・インタフェースまたはプローブ・ゲートウェイに提供します。

レベル	説明
エラー:	サーバ側のすべての DFM プロセス・エラー。
情報:	処理中の要求に関する情報。
デバッグ:	主にデバッグのためのログ。

基本的なトラブルシューティング: 調査を必要とする無効なユーザ・インタフェース応答またはエラーがあるとき、このログを調べます。このログには、問題の分析を可能にする情報が含まれています。

discoveryServlet.log

このログには、次のサーブレットから送信されたメッセージが記載されます。

- ▶ **Collectors Utilities Servlet** : ユーザ・インタフェースは、このサーブレットを介してサーバに接続します。
- ▶ **Collectors Servlet** : プローブは、このサーブレットを介してサーバに新しいタスクを要求します。
- ▶ **Collectors Results Servlet** : プローブは、このサーブレットを介して新しい結果を送信します。
- ▶ **Collectors Download Servlet** : プローブは、このサーブレットを介して新しいサーバ・データをダウンロードします。

レベル	説明
エラー :	サーブレットのすべてのエラー。
情報 :	ユーザの要求およびプローブのタスク要求に関する情報。
デバッグ :	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザの要求 ▶ DFM タスクを読み取るためのプローブ要求 ▶ サーブレットへのプローブのアクセス

基本的なトラブルシューティング

- ▶ ユーザ・インタフェースとサーバの間の通信の問題
- ▶ プローブとサーバの間の通信の問題

処理に関する一部の問題は、**mamAutoDiscovery.log** ではなくこのログに書き出される場合があります。

mam.AutoDiscovery.Results.Stat.log

プローブから受信した結果の統計情報が格納されます。

ログの重大度レベル

各ログは、記録する情報が特定の重大度しきい値に対応するように設定されます。各種のログがさまざまな情報を追跡するのに使用されているため、ログはそれぞれ適切な標準レベルにあらかじめ設定されています。ログ・レベルの変更方法の詳細については、33 ページの「ログ・レベルの変更」を参照してください。

一般的なログ・レベルを、適用範囲の最も狭いものから最も広いものの順に次に示します。

- ▶ **FATAL (致命的)** : このログは、システムが動作しなくなるイベントだけを記録します。
- ▶ **ERROR (エラー)** : このログは、致命的なイベントに加え、CMDB の機能に直ちに悪影響を及ぼすイベントも記録します。誤動作が発生したときに、エラー・メッセージがログに記録されていないかチェックでき、それらの内容を調べて障害の原因を追跡できます。
- ▶ **WARN (警告)** : ログの適用範囲が広がり、致命のおよびエラー・レベルのイベントに加えて、CMDB が現時点で対処できる問題や、将来の誤動作を防ぐために注意する出来事が含まれます。
- ▶ **INFO (情報)** : すべての活動が記録されます。通常は情報のほとんどは日常的なもので利用価値がなく、ログ・ファイルがすぐにいっぱいになります。
- ▶ **DEBUG (デバッグ)** : このレベルは、HP ソフトウェア・サポートが問題をトラブルシューティングするときに利用します。

注 : 各ログ・レベルの名称は、サーバやプロシージャによって若干異なる場合があります。たとえば、**INFO** は **Always logged** や **Flow** と呼ばれることがあります。

ログ・レベルの変更

HP ソフトウェア・サポートが、ログの重大度しきい値レベルをデバッグ・レベルなどに変更するようお願いする場合があります。ログ・レベルの変更方法の詳細については、38 ページの「[ログ設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



CMDB のユーザ・インターフェース

本項の内容

- ▶ 注釈ツール (33 ページ)
- ▶ [ログ設定] ダイアログ・ボックス (38 ページ)
- ▶ ステータス・バー (39 ページ)

注釈ツール










このツールでは、表示している画面のスナップショットに注釈を追加して、重要な領域を強調表示できます。



利用方法	ステータス・バーで、 [画面キャプチャ ツールを実行] ボタン  をクリックします。
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 注釈オプションは [注釈ツール] ウィンドウの左側にあります。 ▶ 注釈を保存する場合は、次の点に注意してください： <ul style="list-style-type: none"> ▶ スナップショットは .png 形式で保存されます。 ▶ [マイ ドキュメント] ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存する場合、[フォルダの新規作成] アイコン  は選択できません。

注釈オプション

次の要素により、スナップショットに注釈を追加できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素	説明
	<p>パン・ツール：スナップショットに移動します。</p>
	<p>ツールの選択：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を選択します。</p>
	<p>図形ツール：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットに図形を追加します。図形ツール・ボタンをクリックすると、次の図形ボタンが有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  四角形：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を四角形でマークします。 ▶  塗りつぶし四角形：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶした四角形でマークします。 ▶  楕円形：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を楕円形でマークします。 ▶  塗りつぶし楕円形：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶした楕円形でマークします。 ▶  角丸四角形：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を角丸四角形でマークします。 ▶  塗りつぶし角丸四角形：クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶした角丸四角形でマークします。 <p>カスタマイズ このオプションを選択すると、次の各インタフェースを使用して線の外観をカスタマイズできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [線の種類] 追加する線の種類を選択します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実線 ▶ 点線 ▶ [線の幅] 注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。

UI 要素	説明
	<p>線ツール: クリック・アンド・ドラッグで、線ツールが有効になります。このツールは、選択したスナップショットの領域を線でマークします。</p> <p>カスタマイズ: このオプションを選択すると、次の各インターフェースを使用して線の外観をカスタマイズできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [線のスタイル] 追加する線のスタイルを選択します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 標準の線 ▶ エンドポイント付きの線 ▶ 矢印付きの線 ▶ [線の種類] 追加する線の種類を選択します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実線 ▶ 点線 ▶ [線の幅] 注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。
	<p>テキスト・ツール: クリック・アンド・ドラッグでボックスを開き、スナップショットにテキストを追加します。</p> <p>例: スナップショットの特定の領域をマークしている線の上に構文「This is the problematic item」を追加します。</p>















UI 要素	説明
<p>境界線と塗りつぶしの色</p>	<p>該当の四角形を選択して、注釈の境界線と塗りつぶしの色を選択します。次の四角形を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 上の四角形：線ツールで生成し塗りつぶしなしで表示されている図形の線の色を選択します。 ▶ 下の四角形：図形を塗りつぶす色を選択します。 <p>どちらの四角形をクリックしても、色を選択する次のタブを含むダイアログ・ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [Swatches] ▶ [HSB] ▶ [RGB]
<p>不透明度</p>	<p>不透明度バーをスライドして、注釈内で選択した図形の線、テキスト行、または図形の色濃さのレベルを選択します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 不透明度が高いほど、より暗く表示されます。不透明度が低いほど、より明るく表示されます。 ▶ このフィールドは、図形ツール、ライン・ツール、またはテキスト・ツール・ボタンのいずれかが選択された場合に有効です。





メニュー・バー

次の要素により、スナップショットに対して選択したアクションを実行できます。

<p>重要情報</p>	<p>メニュー・バーの要素で次の作業ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スナップショットの外観を変更します。 ▶ ナップショットに追加された注釈のテキストの外観をカスタマイズします。これらの要素は、[テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。
--------------------	---


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	保存 : スナップショットをローカル・マシンに保存します。 注 : ▶ スナップショットは .png 形式で保存されます。 ▶ [マイドキュメント] ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存する場合, [フォルダの新規作成] アイコン  は選択できません。
	すべて選択 : スナップショットに追加されたすべての注釈を選択します。
	選択内容をクリア : すべての注釈をクリアします。
	元に戻す : スナップショットに対して実行した最新のアクションをロールバックします。
	やり直し : スナップショットに対して実行した最新のアクションのロールバックをキャンセルします。
	ズーム・イン : スナップショット・ビューを拡大します。
	ズーム・アウト : スナップショット・ビューを縮小します。
	元のサイズに戻す : スナップショットを元のサイズに戻します。
	印刷 : スナップショットを印刷します。
	太字 : テキストを太字にします。 注 : このフィールドは, [テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。
	斜体 : テキストをイタリック体にします。 注 : このフィールドは, [テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。

UI 要素	説明
	<p>下線: テキストを下線付きにします。</p> <p>注: このフィールドは, [テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。</p>
	<p>アンチエイリアス: テキストまたは注釈行のピクセルの読み込みを調整し, 滑らかに表示されるようにします。</p> <p>注: このフィールドは, [テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。</p>
< フォント・ファミリ >	<p>レポート内のテキストのフォントを選択します。</p> <p>注: このフィールドは, [テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。</p>
< フォント・サイズ >	<p>レポート内のフォントのサイズを選択します。</p> <p>注: このフィールドは, [テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合にのみ有効です。</p>

[ログ設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは, HP Universal CMDB ログの表示やログ・レベルの変更を行うことができます。

利用方法	ステータス・バーで, [ログ レベルの設定] をクリックします。 
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
アペンダ ファイル	リンクをクリックすると, ログ・ファイルがエディタで開きます。
適用	クリックすると, 選択したログ・レベルがログに適用されます。
[ロガー] 表示枠	HP Universal CMDB ログのリストで, 展開して表示できます。リストから必要なログを選択します。ログの詳細が下部の表示枠に表示されます。





UI 要素	説明
ログのアペンダ	ログのカテゴリを定義する文字列です。内部使用専用。
ログレベル	ドロップダウン・リストからログのレベルを選択します。

ステータス・バー



この機能は、CMDB アプリケーションの情報を表示し、インタフェースの一部を設定できるようにします。

利用方法	HP Universal CMDB のすべてのページで、画面の下部に表示されます。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
モジュール	現在選択されているマネージャを表します。このアイテムをクリックすると、すべてのマネージャに関する説明のページが表示されます。
 ユーザ	現在のユーザの名前を表示します。クリックすると、現在のユーザ名とログイン時間がバルーンに表示されます。
< サーバのステータス >	サーバの現在のステータスを表示します。クリックすると、サーバの可用性、タイム・ゾーン、時間がバルーンに表示されます。
	[ユーザプリファレンスの設定] をクリックすると [ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックスが開き、システムのプリファレンスをリセットできます。
	[ログレベルの設定] をクリックすると [ログ設定] ダイアログ・ボックスが開き、選択したログに対してログ・レベルを設定できます。
	[画面キャプチャ ツールを実行] をクリックすると、アプリケーションの画面キャプチャを撮ることができます。このツールを使用すると、画面キャプチャに注釈を追加して保存または印刷することもできます。詳細については、33 ページの「注釈ツール」を参照してください。

第 1 章 • 構成管理データベース (CMDB)

UI 要素	説明
	[ステータス バーのヘルプ] をクリックすると、HP Universal CMDB のヘルプにアクセスできます。
合計ヒープサイズ	アプリケーションが使用しているメモリ量を示します。
	[ガーベジコレクションの実行] をクリックすると、手動でメモリをクリアできます (この機能は一定の間隔で自動的に実行されます)。

2

ログインのトラブルシューティング

本章の内容

トラブルシューティングおよび制限事項 (42 ページ)

🔍 トラブルシューティングおよび制限事項

次の情報を使用して、HP Universal CMDB へのログインの失敗を引き起こすと考えられる原因を検証します。

問題 / 考えられる原因	解決方法
<p>HP Universal CMDB が正常に起動しない。</p> <p>症状 : <code>jboss_boot.log</code> ファイルに次の行が含まれていない。</p> <pre>===== server is up =====</pre>	<p>解決策 1 : Web コンソールにアクセスして、HP Universal CMDB サーバが起動し実行中であることを確認します (<code>http://<サーバ名>:8080/web-console</code>)。<サーバ名>は接続しているHP Universal CMDB サーバの名前です。</p> <p>解決策 2 : データベース接続を確認します。</p> <p>データベース・サーバの起動と実行を検査するには、次の手順で行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Web ブラウザを起動して <code>http://<サーバ名>:8080/jmx-console</code> に移動します。ここで、<サーバ名>には、HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前を指定します。 2 UCMDB の下の UCMDB : service=Dal Services をクリックして JMX MBEAN View を開きます。 3 <code>customerID</code> パラメータの値を 1 にして <code>getDbContext</code> 関数を呼び出します。 4 操作の結果に問題がないかどうかを検査します。 <p>解決策 3 : データベース接続パラメータが正しいことを確認します。インストール時に使用した認証を使用して、Oracle サーバまたは Microsoft SQL Server にログインできることを確認します。</p> <p>解決策 4 : ログ・ファイル</p> <p><code>C:\hp\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log\cmdb.dal.log</code> を使用して、データベース接続を確認します。(詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』(PDF)の「CMDB DAL ログ」を参照してください。)</p> <p>解決策 5 : データベース接続が有効であることを確認するには、Windows コマンド・インタプリタ (<code>cmd.exe</code>) に <code>sqlplus cmdb/cmdb@skazal</code> と入力します。</p>

問題 / 考えられる原因	解決方法
CMDB が壊れている (ユーザ・レコードが CMDB から誤って削除されたなど)。	<p>以前にバックアップしたデータベース・ファイルをインポートします。詳細については、『HP Universal CMDB データベース・ガイド』(PDF) を参照してください。</p> <p>重要: データベースのインポート中は HP Universal CMDB サーバを停止する必要があります。</p> <p>注: 以前にバックアップしたデータベース・ファイルをインポートすると、システムにそれまで存在していたすべてのデータは失われます。</p>
HP Universal CMDB へのログインに失敗した。ログイン名 / パスワードの組み合わせが正しくない可能性がある。	<p>ログイン・ユーザ名 / パスワードの正しい組み合わせを入力します。</p>
予期しないエラーのために HP Universal CMDB ログインに失敗する。	<p>解決策 1: [スタート] > [プログラム] > [HP UCMDB] > [HP Universal CMDB サーバのステータス] を選択し、サービスが実行されていることを確認します。</p> <p>解決策 2: 次のログ・ファイルでエラーを探します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ C : %hp%\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log\error.log ▶ C : %hp%\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log\ui-server.log <p>未知のエラーが見つかったら、HP ソフトウェア・サポート にお問い合わせください。</p>

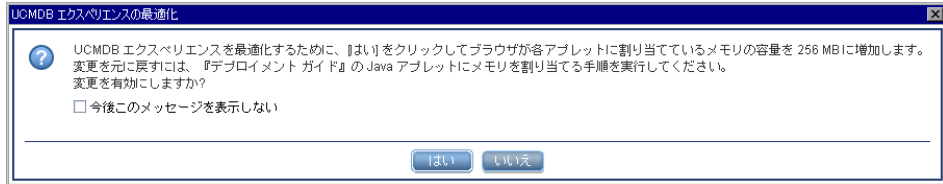
クライアント・マシンに Java がインストールされていない

Java がマシンにインストールされていない場合、ログイン中に正しいバージョンの Java Runtime Environment をインストールするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。JRE は HP Universal CMDB アプレットを表示するのに必要です。

HP Universal CMDB 該当するボタンをクリックして sun.com または HP Universal CMDB サーバのどちらかから Java をインストールします。

Java の構成の更新

HP Universal CMDB が初期メモリに問題を検出すると、次のメッセージが表示されます。



注：Java version 6 update 10 からは、このメッセージは該当しないため表示されません。

第 II 部

管理

3

インフラストラクチャ設定マネージャ

本章の内容

概念

- ▶ インフラストラクチャ設定マネージャの概要 (48 ページ)

参照先

- ▶ インフラストラクチャ設定マネージャのユーザ インタフェース (49 ページ)

概念

インフラストラクチャ設定マネージャの概要

HP Universal CMDB とそのアプリケーションの実行方法を決定するさまざまな設定の値を定義できます。

注意：設定を変更すると、HP Universal CMDB のパフォーマンスに悪影響が出る可能性があります。や HP サービス担当者に相談せずに設定を変更しないよう強くお勧めします。

参照先


インフラストラクチャ設定マネージャのユーザ インタフェース

本項の内容

- ▶ [標準設定値の変更] ダイアログ・ボックス (49 ページ)
- ▶ [インフラストラクチャ設定マネージャ] ページ (50 ページ)

[標準設定値の変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、インフラストラクチャ設定の標準設定値を編集できます。

利用方法	ナビゲーション・メニューから [インフラストラクチャ設定マネージャ] を選択するか、[マネージャ] > [管理] > [インフラストラクチャ設定マネージャ] の順に選択して必要な設定を選択し、  [標準設定値の変更] ボタンをクリックします。
重要情報	グローバルな設定の標準設定値は変更できません。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。





UI 要素	説明
標準設定値	変更された標準設定値
ファクトリ値	HP Universal CMDB で初期設定されている標準設定値

[インフラストラクチャ設定マネージャ] ページ

このページでは、インフラストラクチャ設定の表示および編集を行うことができます。

利用方法	ナビゲーション・メニューから [インフラストラクチャ設定マネージャ] を選択するか、[マネージャ] > [管理] > [インフラストラクチャ設定マネージャ] を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	保存 ：行った変更を保存します。
	プロパティ ：選択した設定に関するインフラストラクチャのプロパティを表示できます。[プロパティ] ウィンドウが開きます。
 標準設定に戻す	選択された設定の標準設定値を回復 ：選択されたインフラストラクチャ設定の前の標準設定値を回復します。
	標準設定値の変更 ：インフラストラクチャ設定を編集できます。[標準設定値の変更] ダイアログ・ボックスが開きます。
<変更済み>	<p>注：これはテーブルの最初のカラムです。[名前] カラムの左にあります。このカラム名を表示するには、カラム見出しの上にカーソルを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ パラメータが変更されていない場合、そのパラメータの [変更済み] カラムの行は空白のままです。 ▶ パラメータが変更された場合、そのパラメータの行にアスタリスクが表示されます。
[カテゴリ] 表示枠	インフラストラクチャ設定のカテゴリのリストが表示されます。カテゴリを選択して、そのカテゴリに関係があるインフラストラクチャ設定を表示するか、[<すべて>] を選択してすべてのインフラストラクチャ設定を表示します。
詳細	インフラストラクチャ設定の説明です。

UI 要素	説明
適用フィルタ	<p>[インフラストラクチャ設定マネージャ] ページに表示するインフラストラクチャ設定の条件を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [フィルタ] ボックスで、必要なフィルタ条件を選択します。 ▶ [適用] ボックスに、検索するテキストまたはテキストの一部を入力します。 <p>注: [<変更済み>] でパラメータ設定をフィルタするには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [適用] ボックスに false と入力し、変更されていないパラメータを表示します。 ▶ [適用] ボックスに true と入力し、変更されたパラメータを表示します。
名前	インフラストラクチャ設定の名前です。
更新タイミング	インフラストラクチャ設定値が変更された後、HP Universal CMDB でいつ変更内容が有効になるかを示します。
値	インフラストラクチャ設定の値です。

4

パッケージ・マネージャ

本章の内容

概念

- ▶ パッケージ管理の概要 (54 ページ)
- ▶ パッケージの zip ファイルの内容と形式 (56 ページ)
- ▶ インテグレーション・アダプタのパッケージ (57 ページ)

タスク

- ▶ カスタム・パッケージの作成 (58 ページ)
- ▶ パッケージのデプロイ (59 ページ)
- ▶ パッケージのエクスポート (60 ページ)
- ▶ ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックのインストール (60 ページ)
- ▶ JMX コンソールを使用したパッケージ・マネージャ・タスクの実行 (61 ページ)

参照先

- ▶ パッケージのリソース (66 ページ)
- ▶ リソース・タイプ (69 ページ)
- ▶ パッケージ・マネージャのユーザ・インタフェース (71 ページ)
- ▶ トラブルシューティングと制限事項 (87 ページ)

概念

パッケージ管理の概要

パッケージには、定義された条件でグループ化されたリソースが含まれます。標準設定のリソース・タイプのリストについては、69 ページの「リソース・タイプ」を参照してください。

パッケージ・マネージャには、次に示すさまざまな機能があります。

- ▶ 特定の IT インフラストラクチャ・アセットを検出できます。たとえば、HP Universal CMDB は、SQL_Server パッケージをデプロイして Microsoft SQL サーバを検出します。
- ▶ パッケージに含まれている CI タイプを通して CI タイプ・モデルを定義できます。たとえば、Host_Resources_Basic パッケージに含まれている CI タイプには、ファイル・システム、CPU、プロセス、印刷キューなどがあります。
- ▶ リソースのグループをあるシステムから別のシステムに移動できます。たとえば、テスト環境から運用環境に移動できます。

パッケージには次の 2 つのタイプがあります。

- ▶ **ファクトリ・パッケージ**: インストールとともにデプロイされ、HP Universal CMDB の初期化に使用されるリソースが含まれます。

標準設定では、ファクトリ・パッケージは

C: %hp%UCMDB%UCMDBServer%content%basic_packages にあります。

注: インストールとともにデプロイされるファクトリ・パッケージの中には、パッケージ・マネージャに表示されるパッケージのリストに現れないものもあります。非表示になっているパッケージを表示するには、[パッケージ・マネージャ] ページの任意の場所で右クリックし、[非表示パッケージを表示] を選択します。

- ▶ **カスタム・パッケージ**：ユーザが作成したパッケージです。開発するツールに必要なリソースがファクトリ・パッケージに含まれていない場合や、システム間でリソースをエクスポートする必要がある場合は、カスタム・パッケージを作成することをお勧めします。詳細については、73 ページの「[カスタムパッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザード」を参照してください。

注意：リソースまたは開発するツールのためにカスタム・パッケージを作成する場合は、そのパッケージを

C : %hp%\UCMDB\UCMDBServer\content\basic_packages フォルダに置かないでください。このフォルダはファクトリ・パッケージ専用です。

システム間でのパッケージのエクスポートおよびデプロイは、パッケージ・マネージャ・インタフェースを介して行います。

次のことが行えます。

- ▶ パッケージ・リソースの一部またはすべてをローカル・ディレクトリにエクスポートします。詳細については、60 ページの「パッケージのエクスポート」を参照してください。
- ▶ パッケージ・リソースの一部またはすべてをローカル・ディレクトリからCMDB にデプロイします。詳細については、59 ページの「パッケージのデプロイ」を参照してください。

パッケージの場所

自動的にデプロイされるパッケージには、

C : %hp%\UCMDB\UCMDBServer\content の下に次の 3 つの事前定義フォルダが用意されています。

- ▶ **basic_packages**
内部パッケージ
- ▶ **アダプタ**
アダプタ・パッケージ
- ▶ **CP.zip**
Content Pack パッケージ

パッケージ・マネージャのユーザ・インタフェース

パッケージ・マネージャの各パッケージのユーザ・インタフェースには、次のようなものがあります。

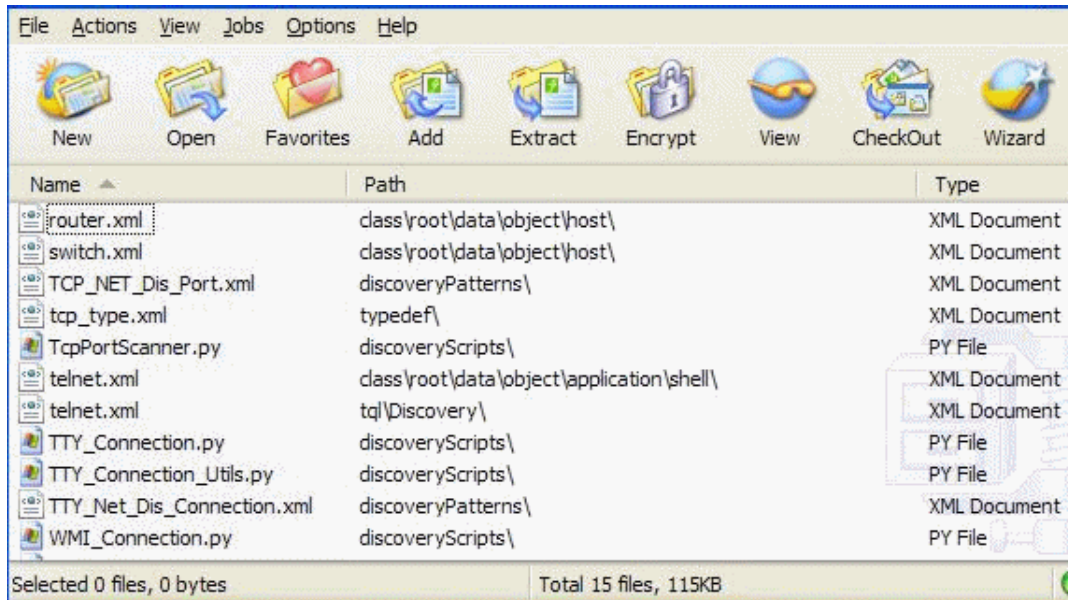
- ▶ パッケージがファクトリ，非表示，ユーザのいずれであるかを示す**アイコン**
- ▶ .zip ファイルの名前である**パッケージ名**（任意指定）
- ▶ descriptor.xml ファイルで割り当てられた**カテゴリ**（任意指定）
- ▶ パッケージに対応する **Readme** ファイル（任意指定）
- ▶ descriptor.xml ファイルの説明に対応する**説明**

パッケージの zip ファイルの内容と形式

パッケージのリソースは CMDB に格納されます。システム間でパッケージをエクスポートするには、パッケージ・マネージャ・インタフェースを使用します（詳細については、81 ページの「[パッケージ マネージャ] ページ」を参照してください）。パッケージ・マネージャは、リソースをエクスポートできるように、リソースが含まれた zip ファイルを作成します。

パッケージ・マネージャからローカル・ディレクトリにリソースをエクスポートする場合は、リソース定義がさまざまな形式（XML 形式など）で格納されます。

次に示すサンプルの **Network.zip** では、**router.xml** ファイルに Router CIT 定義が含まれ、**Switch.xml** ファイルに Switch CIT 定義が含まれています。



🔗 インテグレーション・アダプタのパッケージ

インテグレーション・アダプタをデプロイするには、パッケージを作成し、アダプタを適切なフォルダに置きます。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF)の「新しい外部データ・ストア用のアダプタの追加」を参照してください。

タスク

カスタム・パッケージの作成

新しいパッケージを作成するときは、パッケージに一意の名前を付けて説明を入力し、パッケージに含めるリソースを選択します。詳細については、73 ページの「[カスタム パッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザード」を参照してください。

パッケージに含めるために選択したリソースの例：

次の図のように、[カスタム パッケージ] ウィザードのサマリ・ページには、パッケージに含めるために選択したリソースが表示されます。

このパッケージには、次のリソース・グループのリソースが含まれています。

- ▶ 関係
- ▶ 有効なリンク
- ▶ 構成アイテム タイプ

選択サマリ

パッケージに含まれるリソースを表示します。

有効なリンク：

History Link: InfrastructureElement -> History Change

関係：

applicationLink



構成アイテム タイプ：

Business Service View



パッケージのデプロイ

パッケージ・リソースの一部またはすべてをローカル・ディレクトリから CMDB にデプロイできます。リソースをデプロイするには、パッケージをローカル・ディレクトリに置く必要があります。

ローカル・ディレクトリのパッケージからリソースをデプロイするには、次の手順で行います。

- 1  ボタンをクリックすると、[サーバにパッケージをデプロイ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2  ボタンをクリックすると、[サーバにパッケージをデプロイする (ローカルデスクから)] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 パッケージ zip ファイルを選択して、[Open] をクリックします。ダイアログ・ボックスの上部の表示枠にパッケージが表示され、下部の表示枠にリソースが表示されます。
- 4 デプロイするリソースをパッケージから選択します。標準設定では、すべてのリソースが選択されています。
- 5 必要に応じて、別のパッケージ zip ファイルを選択して、デプロイする関連リソースを選択します。
- 6 選択した各パッケージからデプロイするリソースをすべて選択してから、[デプロイ] をクリックします。
- 7 選択した各リソースのデプロイが正常に実行されたかどうかを示すステータス・レポートが表示されます。

パッケージ内の特定リソースのみのデプロイの例：


ticket2.zip というパッケージに含まれているリソースのうち、一部だけをデプロイします。 ボタンをクリックします。[サーバにパッケージをデプロイ] ダイアログ・ボックスで、 ボタンをクリックしてパッケージの場所を参照し、デプロイするリソースをそのパッケージから選択します。次の図を参照してください。



🔑 パッケージのエクスポート

パッケージ・リソースの一部またはすべてをローカル・ディレクトリにエクスポートできます。詳細については、81 ページの「[パッケージ マネージャ] ページ」を参照してください。

パッケージ内の特定リソースのみのエクスポート例：

ticket2.zip というパッケージに含まれているリソースのうち、一部だけをローカル・ディレクトリにエクスポートします。 ボタンをクリックします。[エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボックスで、[リソースをエクスポート] オプションを選択し、エクスポートするリソースを選択します。次の図を参照してください。



🔑 ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックのインストール

注：本項は、Content Pack 7.00 以降に適用されます。

HP Universal CMDB は、最新バージョンのディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックとともにリリースされます。最新のコンテンツ・パック・リリースをインストールするには、次の手順で行います。

- 1 HP ライブ・ネットワーク・サイトでコンテンツ・パックにアクセスします。サイトにアクセスするには、[データ フロー管理] > [DDM コミュニティ] を選択します。
- 2 zip ファイルをダウンロードして、HP Universal CMDB サーバのルート・フォルダに抽出します。
- 3 UCMDB で、[管理] > [パッケージ マネージャ] を選択してパッケージ・マネージャにアクセスします。[コンテンツ パックのインストール] をクリックして [コンテンツ パックのインストール] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、81 ページの「[パッケージ マネージャ] ページ」を参照してください。
- 4 インストールするコンテンツ・パックを選択して、[インストール] をクリックします。

5 確認メッセージに対して [OK] をクリックします。

UCMDB でコンテンツ・パックのインストールが開始されます。

インストールが完了すると、インストールの結果を示すメッセージが表示されます。

JMX コンソールを使用したパッケージ・マネージャ・タスクの実行

本項では、JMX コンソールで実行できるパッケージ・マネージャ・タスクについて説明します。

注：

- ▶ 次のタスクを実行する際は、JMX コンソールではなくパッケージ・マネージャを使用することをお勧めします。
- ▶ パッケージ・マネージャでは「パッケージのデプロイ履歴の表示」を実行できません。

本項の内容

- ▶ 62 ページの「パッケージのデプロイ」
- ▶ 63 ページの「パッケージのデプロイ履歴の表示」
- ▶ 63 ページの「パッケージのアンデプロイ」
- ▶ 64 ページの「現在デプロイされているパッケージの表示」
- ▶ 64 ページの「パッケージのエクスポート」

パッケージのデプロイ

JMX コンソールを使用してパッケージをデプロイするには、次の手順で行います。

- 1 Web ブラウザを起動し、アドレスとして **http://< サーバ名 > : 8080/jmx-console** と入力します。<サーバ名> は、HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 UCMDB の下の **service=Packaging Services** をクリックして JMX MBEAN ページを開きます。
- 3 **deployPackages** を見つけます。
- 4 パラメータ **customerID** の [Value] ボックスで、<顧客 ID> を入力します。
- 5 パラメータ **dir** の [Value] ボックスに、パッケージの zip ファイルが格納されているフォルダの名前を入力します。フォルダのフル・パスを入力してください。

注 : **basic_packages** ディレクトリからパッケージをデプロイする場合、このボックスには何も入力しません。

- 6 パラメータ **packagesNames** の [Value] ボックスにパッケージの名前を入力します。詳細については、65 ページの「パッケージ名ルール」を参照してください。
- 7 DFM で変更された DFM ジョブ構成よりこの構成を優先するには、[TRUE] を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「[アドバンス モード] ウィンドウ」を参照してください。
- 8 [Invoke] をクリックしてパッケージをデプロイします。

パッケージのデプロイ履歴の表示

パッケージをデプロイするたびに、パッケージのデプロイ・ステータスが記載されたレポートが作成されます。このデプロイ・ステータス・レポートを表示するには、JMX コンソールを使用します。

- 1 Web ブラウザを起動して **http://<サーバ名>:8080/jmx-console** に移動します。ここで、<サーバ名> は HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 UCMDB の下の **service=Packaging Services** をクリックして JMX MBEAN ページを開きます。
- 3 **displayResourcesDeploymentHistory** を見つけます。
- 4 パラメータ **customerId** の [Value] ボックスに<顧客 ID>を入力します。
- 5 パラメータ **reportNum** の [Value] ボックスに、表示するレポートの番号を入力します。
- 6 [Invoke] をクリックして、パッケージのデプロイ・ステータス・レポートを表示します。

パッケージのアンデプロイ

JMX コンソールを使用してパッケージをアンデプロイするには、次の手順で行います。

- 1 Web ブラウザを起動して **http://<サーバ名>:8080/jmx-console** に移動します。ここで、<サーバ名> は HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 UCMDB の下の **service=Packaging Services** をクリックして JMX MBEAN ページを開きます。
- 3 **undeployPackages** を見つけます。
- 4 パラメータ **customerId** の [Value] ボックスに<顧客 ID>を入力します。
- 5 パラメータ **packagesNames** の [Value] ボックスに、削除するパッケージの名前を入力します。詳細については、65 ページの「パッケージ名ルール」を参照してください。
- 6 [Invoke] をクリックしてパッケージをアンデプロイします。

現在デプロイされているパッケージの表示

JMX コンソールを使用して、現在デプロイされているパッケージを表示するには、次の手順で行います。

- 1 Web ブラウザを起動して **http://<サーバ名>:8080/jmx-console** に移動します。ここで、<サーバ名> は HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 UCMDDB の下の **service=Packaging Services** をクリックして JMX MBEAN ページを開きます。
- 3 **displayDeployedPackages** を見つけます。
- 4 パラメータ **customerId** の [Value] ボックスに <顧客 ID> を入力します。
- 5 パラメータ **packagesNames** の [Value] ボックスに、表示するパッケージの名前を入力します。詳細については、65 ページの「パッケージ名ルール」を参照してください。
- 6 [Invoke] をクリックして、現在デプロイされているパッケージを表示します。

パッケージのエクスポート

JMX コンソールを使用して、CMDB から HP Universal CMDB がインストールされているサーバにリソースをエクスポートするには、次の手順で行います。

- 1 Web ブラウザを起動して **http://<サーバ名>:8080/jmx-console** に移動します。ここで、<サーバ名> は HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。
- 2 UCMDDB の下の **service=Packaging Services** をクリックして JMX MBEAN ページを開きます。
- 3 **exportPackages** を見つけます。
- 4 パラメータ **customerId** の [Value] ボックスに <顧客 ID> を入力します。
- 5 パラメータ [Value] の [**packageName**] ボックスに、エクスポートするパッケージの名前を入力します。詳細については、65 ページの「パッケージ名ルール」を参照してください。

- 6 パラメータ **outputDir** の [Value] ボックスに、パッケージの zip ファイルのエクスポート先となる HP Universal CMDB サーバ上のフォルダの名前を入力します。フォルダのフル・パスを入力してください。
- 7 パラメータ **userOnly** の [Value] ボックスで、次のどちらかを選択します。
 - ▶ **True** : カスタム・パッケージのみエクスポートします。
 - ▶ **False** : カスタム・パッケージとファクトリ・パッケージの両方をエクスポートします。
- 8 [Invoke] をクリックしてパッケージをエクスポートします。

パッケージ名ルール

パッケージ名の入力規則は次のとおりです。

- ▶ ワイルドカード文字 (*) は使用できません。
- ▶ パッケージ名には大文字と小文字の区別があります。
- ▶ パッケージ名には **.zip** 拡張子が必要です。
- ▶ 複数のパッケージをデプロイする場合は、パッケージ名をカンマで区切ります。

参照先

パッケージのリソース

本項では、パッケージに含めることができるリソースを一覧で示します。使用可能なリソース・タイプとその説明の一覧については、69 ページの「リソース・タイプ」を参照してください。

- ▶ **acl** : 管理者やゲストといったロールの定義です。詳細については、109 ページの「ユーザとロール」を参照してください。
- ▶ **adapter** : デプロイされるフェデレート・アダプタの説明と機能が含まれています。
- ▶ **adapterCode** : フェデレート・アダプタに必要なコンパイル済みクラス（通常は jar）であり、元となった *.jar ファイル、構成ファイルが含まれています。これらのファイルは、zip パッケージの **adapterCode**<adapter ID> フォルダに置きます。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「新しい外部データ・ストア用のアダプタの追加」を参照してください。
- ▶ **calculatedlinks** : 定義されている計算された各リンクの、計算されたスーパー・クラスが含まれています。
- ▶ **calculatedlinkstriplets** : CI タイプ・マネージャで定義された、計算された関係とそのトリプレットが含まれています。
- ▶ **categories** : 影響分析で使用される状態定義が含まれています。状態の詳細については、89 ページの「状態マネージャ」を参照してください。影響分析の詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「影響分析マネージャ」を参照してください。
- ▶ **class** : ホスト、ファイル、スイッチといった CI タイプの説明です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ **cmdbview** : 各ビューのベース TQL クエリに定義されている、階層ルールが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「モデリング・スタジオ」を参照してください。
- ▶ **correlation** : 影響ルールの定義です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「影響分析マネージャ」を参照してください。

- ▶ **datamodel** : CI インスタンスをシステムにインポートするのに使用されます。CMDB に CI が存在しない場合は、CI のインスタンスが作成されます。すでに CMDB に CI が存在している場合は、パッケージ・リソースの CI の値によって CMDB の CI の値が上書きされます。
- ▶ **datamodelcreateonly** : CI インスタンスをシステムにインポートするのに使用されます。CMDB に CI が存在しない場合は、CI のインスタンスが作成されます。すでに CMDB に CI が存在している場合、パッケージ・リソースの CI の値によって CMDB の CI の値は上書きされません。
- ▶ **datamodelgenerateids** : デプロイ時に ID を動的に計算する必要がある CIT (キー属性のない CIT など) の CI インスタンスをシステムにインポートするのに使用されます。
- ▶ **dataStore** : インテグレーション・ポイントの定義が含まれています。
- ▶ **discoveryConfigFiles** : 構成ファイルには、システムでコンポーネントを検出するのに必要なプロパティおよびパラメータが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「アダプタ管理」を参照してください。
- ▶ **discoveryJobs** : データ・フロー管理 (DFM) ジョブには、コンポーネントの検出をアクティブ化するのに必要な構成データ、スケジュール情報、TQL の割り当てが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・コントロール・パネル」を参照してください。
- ▶ **discoveryModules** : DFM モジュールには、システムで特定のコンポーネントを検出するのに必要なすべてのジョブが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・コントロール・パネル」を参照してください。
- ▶ **discoveryPatterns** : DFM アダプタは、実行するコードとその順序を定義します。また、入力および出力の CI タイプとパラメータを宣言し、それらに関連するディスカバリ・ジョブで構成可能となるようにします。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「アダプタ管理」を参照してください。
- ▶ **discoveryResources** : 外部リソースには、Visual Basic ファイルやその他の jar ファイルなど、DFM に必要なすべての外部リソースが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「アダプタ管理」を参照してください。

- ▶ **discoveryScripts** : DFM Jython スクリプトは、ネットワーク・コンポーネント上または外部データ・リポジトリとのインテグレーション時にディスカバリを実行して、CMDB にデータをポピュレートします。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「アダプタ管理」を参照してください。
- ▶ **discoveryWizard** : [ディスカバリ ウィザード] ダイアログ・ボックスの内容を定義するのに使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「ディスカバリ・コントロール・パネル」を参照してください。
- ▶ **enrichment** : エンリッチメント・ルールの定義です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。
- ▶ **identification** : 特定の CI タイプの識別定義が含まれています。
- ▶ **integrationUsers** : インテグレーション・タイプのユーザを定義します。
- ▶ **modelnotification** : CMDB モデル通知のフィルタ定義が含まれています。データ・モデル通知システムは、CMDB で発生した変更を通知します。たとえば、CMDB 内のアイテムの削除、更新、追加などです。
- ▶ **report** : レポート・ルールの定義です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「トポロジ・レポートの概要」を参照してください。
- ▶ **schedulerJob** : 実行するようにスケジューラに定義されているタスクです。詳細については、95 ページの「スケジューラ」を参照してください。
- ▶ **singletqlref** : TQL テンプレートとパースペクティブ・インスタンスが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「モデリング・スタジオ」を参照してください。
- ▶ **tql** : TQL クエリの定義です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要」を参照してください。
- ▶ **typedef** : 重大度レベルや管理状態など、列挙タイプの属性に関連する事前定義された列挙の定義です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ **users** : ユーザおよびユーザのロールの定義です。詳細については、128 ページの「セキュリティ・マネージャのユーザ・インタフェース」を参照してください。
- ▶ **validlinks** : 事前に定義された、CIT 間のすべての有効な接続 (関係) です。

リソース・タイプ

本項では、使用可能なリソース・タイプとその説明を一覧で示します。パッケージに含めることができるリソースの一覧については、66 ページの「パッケージのリソース」を参照してください。

モデル

- ▶ **構成アイテムタイプ**：CI タイプ・マネージャで定義された CIT です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「CI タイプの概要」を参照してください。
- ▶ **識別**：CI の識別ルールを含む設定ファイル。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「Identification Configuration」を参照してください。
- ▶ **関係**：CI タイプ・マネージャで定義された関係です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「CI タイプの関係」を参照してください。
- ▶ **計算された関係**：CI タイプ・マネージャで定義された、計算された関係とそのトリプレットが含まれています。
- ▶ **有効なリンク**：CIT フォルダで定義された CIT 間の、事前に定義された、可能性のあるすべての有効な接続（関係）です。

クエリ

- ▶ **クエリ**：モデリング・スタジオの TQL エディタで定義された TQL クエリです。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「トポロジ・クエリ言語 (TQL)」を参照してください。
- ▶ **ビュー**：モデリング・スタジオのビュー・エディタで定義されたビューです。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「ビュー形式」を参照してください。
- ▶ **エンリッチメント**：エンリッチメント・マネージャで定義されたエンリッチメント・ルールです。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。
- ▶ **影響ルール**：影響分析ルールです。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「影響分析マネージャ」を参照してください。

設定

- ▶ **タイプの定義**：重大度レベルや管理状態など、列挙タイプの属性に関連する事前定義された列挙の定義です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ **スケジューラ・ジョブ**：実行するようにスケジューラに定義されているタスクです。詳細については、95 ページの「スケジューラ」を参照してください。
- ▶ **ユーザ**：ユーザおよびユーザのロールの定義です。詳細については、128 ページの「セキュリティ・マネージャのユーザ・インタフェース」を参照してください。
- ▶ **状態カテゴリ**：状態マネージャで定義された状態です。詳細については、89 ページの「状態マネージャ」を参照してください。
- ▶ **インテグレーション・ユーザ**：Business Service Management, Release Control などの外部アプリケーションが、UCMDB Java API (SDK) を消費して UCMDB と通信できるようにします。インテグレーション・ユーザはパッケージを使用してデプロイされ、ユーザ・リストには表示されません。

ディスカバリ

- ▶ **アダプタ**：DFM アダプタは、実行する必要があるスクリプトとその順序を定義します。また、入力および出力の CI タイプとパラメータを宣言し、それらに関連するディスカバリ・ジョブで構成可能となるようにします。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF)の「アダプタ管理」を参照してください。
- ▶ **ディスカバリ文書**：ディスカバリ文書は、特定のパッケージの使用法と機能について説明しているカスタマイズされたドキュメントです。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「Attach Discovery Documentation to a Discovery Package」を参照してください。
- ▶ **ディスカバリ モジュール**：ディスカバリ・モジュールには、システムで特定のコンポーネントを検出するのに必要なすべてのジョブが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF)の「[ディスカバリ モジュール]」を参照してください。
- ▶ **ディスカバリ・ジョブ**：ディスカバリ・ジョブには、コンポーネントの検出をアクティブ化するのに必要な構成データ、スケジュール情報、TQL の割り当てが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF)の「ディスカバリ・コントロール・パネル」を参照してください。

- ▶ **ディスカバリ構成ファイル**：構成ファイルには、システムでコンポーネントを検出するのに必要なプロパティおよびパラメータが含まれています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「Resource Files」を参照してください。
- ▶ **Discovery Jython Script**：ディスカバリ Jython スクリプトは、さまざまなネットワーク・エンティティを検出してマップする検出プロセスで使用される Jython スクリプトです。
- ▶ **ディスカバリ外部リソース**：Data Flow Probe で直接使用されるのではなく、DFM スクリプトで間接的に使用されるリソースが含まれます。これには、バイナリの実行ファイルまたは DLL、XML 構成ファイル、検出が適切に機能するのに必要なその他の重要なリソースが含まれます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「アダプタ管理」を参照してください。
- ▶ **ディスカバリ・ウィザード・リソース**：[ディスカバリ ウィザード] ダイアログ・ボックスの内容を定義するのに使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「[ベーシックモード]」を参照してください。

パッケージ・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ [エクスポートするリソースを選択] ダイアログ・ボックス (72 ページ)
- ▶ [カスタム パッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザード (73 ページ)
- ▶ [エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボックス (78 ページ)
- ▶ [フィルタ] ダイアログ・ボックス (79 ページ)
- ▶ [検索] ダイアログ・ボックス (80 ページ)
- ▶ [パッケージ マネージャ] ページ (81 ページ)
- ▶ [パッケージ リソースをアンデプロイ] ウィザード (85 ページ)

[エクスポートするリソースを選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ローカル・ディレクトリにパッケージ全体をエクスポートするか、特定のリソースをエクスポートするかを選択できます。



利用方法	[エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボックスで [リソースをエクスポート] ボタンを選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<リソースのリスト>	パッケージに含まれているリソースのリストが表示されます。ローカル・ディレクトリにエクスポートするリソースを選択します。

[カスタム パッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザード

このウィザードでは、既存のリソースを使用してパッケージを作成できます。また、既存のパッケージを編集できます。

利用方法	[追加]  ボタン（[パッケージ マネージャ] ページにある）をクリックして新規パッケージを作成するか、または [編集]  ボタンをクリックして、既存のパッケージを編集します。
重要情報	既存のパッケージを編集する場合、この機能はウィザードではなくダイアログ・ボックスで表示されます。このダイアログ・ボックスには、次の2つのタブがあります。[パッケージのプロパティ] タブと [リソースの選択] タブです。
関連タスク	58 ページの「カスタム・パッケージの作成」
ウィザード・マップ	[カスタム パッケージ作成ウィザード] には、次のページが含まれています。 [パッケージのプロパティ] ページ > [リソースの選択] ページ > [選択サマリ] ページ

[パッケージのプロパティ] ページ

このウィザード・ページでは、パッケージのプロパティを定義できます。

ウィザード・マップ	[カスタム パッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザードには、次のページが含まれています。 [パッケージのプロパティ] ページ > [リソースの選択] ページ > [選択サマリ] ページ
------------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
ファクトリ・パッケージ	インストールとともにデプロイされる標準設定のパッケージを示します。 注: このチェック・ボックスは常にオフです。
非表示パッケージ	インストールとともにデプロイされるパッケージを示します。ただし、[パッケージ マネージャ] ページに表示されるパッケージのリストには表示されません。 注: <ul style="list-style-type: none"> ▶ このチェック・ボックスは常にオフです。 ▶ 非表示になっているパッケージを表示するには、[パッケージ マネージャ] ページの任意の場所で右クリックし、[非表示パッケージを表示] を選択します。
パッケージのカテゴリ	パッケージに関連付けるメモのためのフリー・テキスト・ボックスです。
パッケージの詳細	パッケージの詳細です。
パッケージ名	パッケージの名前です。

[リソースの選択] ページ

このウィザード・ページでは、必要なリソースをパッケージに追加できます。さまざまなリソース・タイプから必要なリソースを選択します。

重要情報	各リソース・タイプから複数のリソースを選択できます。
ウィザード・マップ	[カスタム パッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザードには、次のページが含まれています。 [パッケージのプロパティ] ページ > [リソースの選択] ページ > [選択サマリ] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
✓	左側の表示枠に表示されます。リソースがパッケージに追加されていることを示します。
-	左側の表示枠に表示されます。リソースがパッケージに追加されていないことを示します。

UI 要素	説明
< 左側の表示枠のリソース・タイプ >	<p>パッケージに追加する必要なリソースを選択できるリソース・タイプが含まれています。</p> <p>使用可能なリソース・タイプとその説明の一覧については、69 ページの「リソース・タイプ」を参照してください。</p> <p>注： 右側の表示枠でパッケージに含めるリソースを 1 つ以上選択した場合は、リソース・タイプ・アイコンに緑の点が表示されます。</p>

UI 要素	説明
<p>< 右側の表示枠のリソース ></p>	<p>パッケージに追加するリソースを選択します。複数のリソースを選択できます。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リソース・ツリー内の構成アイテム タイプ、関係、または計算された関係の子が 1 つ以上パッケージに含まれる場合は、この各リソースの右側に緑のチェック・マークが表示されます。 ▶ 一部のリソースのみがパッケージに含まれる場合、フォルダのチェック・ボックスは <input type="checkbox"/> となります (構成アイテム タイプ、関係、計算された関係には適用されません)。 ▶ すべてのリソースがパッケージに含まれる場合、フォルダのチェック・ボックスは選択された状態になります (構成アイテム タイプ、関係、計算された関係には適用されません)。 <p>重要情報：</p> <p>計算された関係をパッケージに追加する場合は、1 つ以上のトリプレットと一緒に必要な計算された関係を選択するか、あるいは、計算された関係を選択せずに必要なトリプレットを選択するかを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特定のトリプレットのみ選択し、計算された関係を選択しない場合は、システムにすでに計算された関係が存在している場合にのみ、トリプレットが追加されます。 ▶ 1 つ以上のトリプレットと一緒に計算された関係を選択した場合は、計算された関係のプロパティ定義がパッケージに含められます。システムにすでに計算された関係が存在する場合は、パッケージに追加する計算された関係のプロパティ定義によって、既存の計算された関係のプロパティ定義が更新されます。 <p>計算された関係とトリプレットの詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「計算された関係の使用」と「[トリプレット] ページ」を参照してください。</p>

[選択サマリ] ページ

このウィザード・ページでは、パッケージに含めるリソースを表示できます。


ウィザード・マップ	[カスタム パッケージ作成ウィザード] および [パッケージを編集] ウィザードには、次のページが含まれています。 [パッケージのプロパティ] ページ > [リソースの選択] ページ > [選択サマリ] ページ
------------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< 選択したリソース >	パッケージに含めるために選択したリソースが表示されます。

[エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択したパッケージ・リソースをローカル・ディレクトリにエクスポートできます。

利用方法	[パッケージ マネージャ] ページで [ローカル ディレクトリにパッケージをエクスポート] ボタン  をクリックします。
重要情報	パッケージの一部のリソースをエクスポートするか、それとも、すべてのリソースをエクスポートするかを選択できます。


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
ディレクトリへエクスポート	リソースのエクスポート先となるディレクトリを選択します。
リソースをエクスポート	パッケージの一部のリソースのみローカル・ディレクトリにエクスポートされます。[エクスポートするリソースを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。

UI 要素	説明
全パッケージをエクスポート	パッケージのすべてのリソースがローカル・ディレクトリにエクスポートされます。
ファイル名	パッケージの名前です。 注：パッケージ名は編集できません。

[フィルタ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、[パッケージ マネージャ] ページで特定のパッケージのみを表示できます。

利用方法	[フィルタ]  ボタン ([パッケージ マネージャ] ページにある) をクリックします。
重要情報	定義したフィルタ条件の詳細は、[パッケージ マネージャ] ページのテーブル・カラムの上に表示されます。たとえば、次の図は、 Network というパッケージを表示するためのフィルタ条件が作成されたことを表しています。 フィルタ: パッケージ名[等値 Network];


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<カラム ヘッダのクリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<カラム・ヘッダの右クリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
条件	ボックス内をクリックし、必要な演算子を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「属性演算子の定義」を参照してください。

UI 要素	説明
表示名	次のいずれかに基づいて、タスク・リストがフィルタ処理されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ パッケージ名 ▶ カテゴリ ▶ Readme ▶ バージョン ▶ 詳細 詳細については、81 ページの「[パッケージ マネージャ] ページ」を参照してください。
値	ボックス内をクリックすると、[編集] ボックスが開きます。必要な値を入力します。 注： [類似] または [類似で大文字小文字を区別しない] 演算子を使用する場合、検索値にワイルドカード (%) を含めます。

[検索] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定のリソースが含まれるパッケージを検索できます。

利用方法	[パッケージ マネージャ] ページの [検索]  ボタンをクリックします。
関連情報	69 ページの「リソース・タイプ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
大文字小文字を区別する	大文字と小文字を区別します。[大文字小文字を区別する] を選択すると、[リソース名] ボックスに入力したテキストと大文字 / 小文字の使い分けが一致するインスタンスのみ検索結果に表示されます。
リソース名	検索するリソースに含まれている単語またはフレーズを入力します。





UI 要素	説明
検索結果	検索の結果です。[リソース名] ボックスに入力したテキストが含まれる、最大 30 のリソースの名前が表示されます。
トピック	パッケージに收容するリソースが含まれているサブシステムです。詳細については、69 ページの「リソース・タイプ」を参照してください。




[パッケージ マネージャ] ページ












このページでは、既存のリソースからパッケージを作成するか、IT 管理のニーズに合わせて既存のパッケージを編集します。

利用方法	ナビゲーション・メニューの[管理] モジュールから [パッケージ マネージャ] を選択するか, [マネージャ] > [管理] > [パッケージ マネージャ] を選択します。
関連情報	54 ページの「パッケージ管理の概要」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	既存のリソースからパッケージを作成できます。[カスタムパッケージ作成ウィザード] が開きます。詳細については、58 ページの「カスタム・パッケージの作成」を参照してください。
	既存のパッケージを編集できます。[パッケージを編集] ウィザードが開きます。
	パッケージ・マネージャからパッケージが削除されます。パッケージのリソースはシステムに残ります。削除されたパッケージは、[パッケージ マネージャ] ページのパッケージのリストから削除されます。
	選択したパッケージに含まれているリソースが表示されます。[パッケージ リソースの表示] ダイアログ・ボックスが開きます。

UI 要素	説明
	<p>システムにデプロイされているパッケージのリストを表示するレポートが生成されます。テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Excel : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。 ▶ PDF : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 注 : PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な数に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。 ▶ CSV : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。 注 : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。 ▶ XML : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。 ヒント : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ファイルを HTML 形式で保存します。 ▶ ファイルを HTML エディタで開きます。 ▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。
	<p>パッケージのリソースがローカル・ディレクトリから CMDB にデプロイされます。上部の表示枠で、 ボタンをクリックすると、[サーバにパッケージをデプロイ] ダイアログ・ボックスが開きます。必要なパッケージを参照します。パッケージのリソースがダイアログ・ボックスの下部の表示枠に表示されます。デプロイするリソースを選択します。</p> <p>注 : デプロイが正常に完了しなかった場合は、[パッケージをデプロイする] ダイアログ・ボックスが開き、パッケージ内のどのリソースが正常にデプロイされなかったかが示されます。</p>

UI 要素	説明
	システムからリソースが削除され、選択したパッケージからもリソースが削除されます。[パッケージ リソースをアンデプロイ] ウィザードが開きます。
	パッケージ・リソースの一部またはすべてがローカル・ディレクトリにエクスポートされます。[エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	特定のリソースが含まれるパッケージが検索されます。[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。
	テーブルの内容が更新されます。
	クリックして、最新のディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックをインストールします。このボタンは、Content Pack 7.00 以降で使用できます。詳細については、60 ページの「ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックのインストール」を参照してください。
	[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。[フィルタ] ダイアログ・ボックスを使用すると、[パッケージ マネージャ] ページに表示するパッケージのみが表示されます。
	[フィルタ] ダイアログ・ボックスで作成したフィルタ定義がクリアされます。これは、フィルタ定義が作成されている場合にのみ有効となります。
	[カラムをカスタマイズ] ボタンをクリックすると、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、カラムの表示順序の変更、カラムの非表示化、非表示カラムの表示が行えるようになります。 [カラムの選択] ダイアログ・ボックスの詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	ファクトリ パッケージを表します。
	非表示になっているパッケージを表します。
	カスタム パッケージを表します。
カテゴリ	[カスタム パッケージ作成ウィザード] の [パッケージのプロパティ] ページに表示される、パッケージに関連付けるフリー・テキストです。


UI 要素	説明
詳細	[カスタム パッケージ作成ウィザード] の [パッケージのプロパティ] ページに表示される、パッケージの説明です。
パッケージ名	パッケージの名前です。
Readme	パッケージの説明とその他の関連情報を読むときにクリックします。

ショートカット・メニュー

メニュー項目	説明
削除	パッケージ・マネージャからパッケージが削除されます。パッケージのリソースはシステムに残ります。削除されたパッケージは、[パッケージ マネージャ] ページのパッケージのリストから削除されます。
編集	選択したパッケージを編集します。[パッケージを編集] ウィザードが開きます。
パッケージをエクスポートする	パッケージ・リソースの一部またはすべてがローカル・ディレクトリにエクスポートされます。[エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボックスが開きます。
非表示パッケージを表示	非表示パッケージの表示 / 非表示を切り替えます。
アンデプロイ	システムからリソースが削除され、選択したパッケージからもリソースが削除されます。[パッケージ リソースをアンデプロイ] ウィザードが開きます。
パッケージ リソースの表示	選択したパッケージに含まれているリソースが表示されます。[パッケージ リソースの表示] ダイアログ・ボックスが開きます。

[パッケージ リソースをアンデプロイ] ウィザード

このウィザードでは、システムからリソースが削除され、選択したパッケージからもリソースが削除されます。

利用方法	[パッケージ マネージャ] ページで [リソースをアンデプロイする]  ボタンをクリックします。
重要情報	パッケージをアンデプロイすると、リソースがシステムから削除され、ほかのパッケージに含まれているリソースも削除されます。リソースを復元できるのは、そのリソースが含まれているパッケージをデプロイしたときのみです。
ウィザード・マップ	[パッケージ リソースをアンデプロイ] ウィザードには、次のページが含まれます。 [リソースの削除] ページ > [選択サマリ] ページ

[リソースの削除] ページ

このウィザード・ページでは、削除するリソースを選択できます。

重要情報	パッケージからすべてのリソースを削除すると、そのパッケージは自動的に削除され、[パッケージ マネージャ] ページのパッケージ・リストからも削除されます。
ウィザード・マップ	[パッケージ リソースをアンデプロイ] ウィザードには、次のページが含まれます。 [リソースの削除] ページ > [選択サマリ] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< 選択したパッケージに含まれているリソースのリスト >	選択したパッケージに含まれているリソースが表示されます。システムから削除するリソースを選択します。

[選択サマリ] ページ

このウィザード・ページでは、削除するために選択したリソースを表示できます。

重要情報	アンデプロイが正常に完了しなかった場合は、[パッケージをアンデプロイする] ダイアログ・ボックスが開き、パッケージ内のどのリソースが正常にアンデプロイされなかったかが示されます。
ウィザード・マップ	[パッケージリソースをアンデプロイ] ウィザードには、次のページが含まれます。 [リソースの削除] ページ > [選択サマリ] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< 削除するリソースのリスト >	パッケージから削除するために選択したリソースが表示されます。

トラブルシューティングと制限事項

本項では、パッケージのデプロイ時およびアンデプロイ時に生じる可能性があるトラブルシューティングの問題について説明します。

本項の内容

- ▶ 87 ページの「パッケージ・マネージャでゴールド・マスタ・レポートをデプロイできない」
- ▶ 87 ページの「データ・モデル・リソースをアンデプロイできない」
- ▶ 87 ページの「パッケージのデプロイの失敗に関する追加情報」
- ▶ 88 ページの「英語以外のロケールでのパッケージの作成とデプロイ」

パッケージ・マネージャでゴールド・マスタ・レポートをデプロイできない

ゴールド・マスタ・レポート定義が含まれるパッケージ・リソースをパッケージ・マネージャからエクスポートし、再度そのリソースを別のシステムにエクスポートした場合、ゴールド・マスタ・レポート定義はデプロイされません。

データ・モデル・リソースをアンデプロイできない

パッケージ・リソースの一覧については、66 ページの「パッケージのリソース」を参照してください。

パッケージのデプロイの失敗に関する追加情報

パッケージのデプロイが失敗したときは、パッケージ・マネージャ・ログ・ファイルを調べて、デプロイが失敗した原因に関する追加情報を得ることができます。

ログ・ファイルは、`C:\%hp%\UCMDB\UCMDBServer\runtime\log` フォルダに保存されます。

英語以外のロケールでのパッケージの作成とデプロイ

本項では、英語以外のロケールで作業する場合の制限事項について説明します。

- ▶ サーバとクライアントのロケールが異なり、パッケージ名に英語以外の文字が含まれている場合、パッケージをデプロイできません。
- ▶ サーバとクライアントのロケールが異なる場合、名前に英語以外の文字を持つリソース（ビューやTQLクエリなど）を含むパッケージは作成できません。

5

状態マネージャ

本章の内容

概念

- ▶ 状態マネージャの概要 (90 ページ)

タスク

- ▶ 状態の定義 (91 ページ)

参照先

- ▶ 状態マネージャのユーザ・インタフェース (92 ページ)

概念

状態マネージャの概要

状態は、列挙定義と呼ばれる重要度リストに基づいています。

状態は、IT ユニバース・マネージャで影響分析結果を取得するために必要です。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「IT ユニバース・マネージャ」を参照してください。

影響分析結果を取得するには、影響分析マネージャで影響分析ルールを作成する必要があります。このルールは **Operation** 状態に基づきます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「影響分析マネージャ」を参照してください。

状態マネージャには、標準設定の状態として **Change** と **Operation** の 2 つがあります。これらは、それぞれ固有の重大度リストに基づいています。

IT ユニバース・マネージャで影響分析結果を取得するには、**Operation** 状態のみ使用できます。

注: 状態を定義する場合は、事前に HP ソフトウェア・サポートに相談することをお勧めします。

タスク

状態の定義



- 1 **[状態の追加]** ボタンをクリックして、状態の一意の名前と詳細を入力します。
- 2 **[タイプの定義]** カラム内をクリックし、必要な列挙定義を選択します。[タイプの定義] リストに、システム・タイプ・マネージャで定義された列挙定義が表示されます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「[システムタイプ・マネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- 3 (任意指定) **[新規列挙]** ボタンをクリックして、新しい列挙定義を作成することもできます。詳細については、92 ページの「[状態マネージャ] ページ」を参照してください。

注: キー値のリストがゼロ (0) で始まる列挙定義のみが状態マネージャに表示されます。

あるいは、システム・タイプ・マネージャで列挙定義を作成することもできます。システム・タイプ・マネージャで作成した列挙定義は、状態マネージャに表示されます。

参照先

状態マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容



▶ [状態マネージャ] ページ (92 ページ)


[状態マネージャ] ページ

このページでは、重大度リスト（列挙定義）に基づいて状態を作成できます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [状態マネージャ] を選択するか, [マネージャ] > [管理] > [状態マネージャ] を選択します。
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Change 状態と Operation 状態は、編集できない標準設定の状態です。 ▶ 状態を定義する場合は、事前に HP ソフトウェア・サポートに相談することをお勧めします。
関連タスク	91 ページの「状態の定義」
関連情報	『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「列挙定義の作成 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	状態を追加します。
	状態を削除します。

UI 要素	説明
	<p>列挙定義を作成します。[列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「リスト / 列挙定義の作成 / 更新ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p>作成した列挙定義は、[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックスに表示され、必要に応じて列挙定義を編集できます（詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください）。</p>
詳細	(任意指定) ボックスをクリックし、状態の詳細を入力します。
名前	ボックスをクリックし、状態の一意の名前を入力します。
タイプの定義	<p>ボックスをクリックし、列挙定義のリストを表示します。</p> <p>注：[タイプの定義] リストには、システム・タイプ・マネージャで定義された、キー値のリストがゼロ (0) で始まる列挙定義（リスト定義ではなく）のみが表示されます。</p>

6

スケジューラ

本章の内容

タスク

- ▶ 定期的にアクティブ化されるタスクの定義 (96 ページ)

参照先

- ▶ スケジューラのユーザ・インタフェース (98 ページ)

タスク

定期的にアクティブ化されるタスクの定義

このタスクでは、ジョブを定期的に行う方法について説明します。

本項の内容

- ▶ 96 ページの「ジョブ定義の作成」
- ▶ 97 ページの「アクションの選択」
- ▶ 97 ページの「タスクのスケジュール設定」

1 ジョブ定義の作成

ジョブ定義を定義します。作成したジョブにアクションを追加し、実行頻度を定義します。[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスに定義したタスクが表示されます。詳細については、100 ページの「[ジョブ定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ジョブ定義の例

次の図では、エンリッチメント・ルールを毎週日曜日の午前 7:30 に実行するように設定しています。

アク...	名前	ジョブ定義	スケジュール	最終実行時間	次の実行時間
<input checked="" type="checkbox"/>	CUSTOM_ENRICHMEN...	Run an Enrichment rule	週ごと (日曜日)[07:30] ...		2009年6月28日 (日曜日)...

2 アクションの選択

スケジューラに実行させるアクションを選択します。詳細については、98 ページの「[アクション定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

3 タスクのスケジュール設定

[スケジューラ] 表示枠で、タスクをアクティブ化するスケジュールを設定します。詳細については、100 ページの「[ジョブ定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

スケジュール設定されたタスクの例

次の図では、**SAP_Old_Transports** というエンリッチメント・ルールを毎日午前 1:00 と午前 6:00 に実行するようにスケジューラが設定されています。

The screenshot shows the configuration for the task 'SAP_Old_Transports'. The task name is 'エンリッチメント ルールを実行 SAP_Old_Transports'. The scheduler settings are as follows:

- スケジュール:** 1回 間隔 日ごと 週ごと 月ごと Cron
- タイムゾーン:** Asia/Tokyo (with a dropdown arrow and a 'サーバタイムゾーンをリセット' button)
- 呼び出し時間:** 01:00,06:00 (with a '>>' button)

参照先


スケジューラのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ [アクション定義] ダイアログ・ボックス (98 ページ)
- ▶ [フィルタ] ダイアログ・ボックス (99 ページ)
- ▶ [ジョブ定義] ダイアログ・ボックス (100 ページ)
- ▶ [ジョブ スケジューラ] ページ (104 ページ)
- ▶ [必要な日数を追加] ダイアログ・ボックス (105 ページ)
- ▶ [時間を選択] ダイアログ・ボックス (106 ページ)

[アクション定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、スケジューラで実行できるアクションのリストから、必要なアクションを選択できます。

利用方法	[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスの [アクション] 表示枠で [追加]  ボタンをクリックします。
重要情報	必要なアクションを選択した後で [次へ] をクリックすると、アクションのリストが表示されます。アクションのリストの内容は、選択したアクションによって異なります。 たとえば、 [エンリッチメントルールを実行] を選択すると、既存のエンリッチメント・ルールのリストが表示されます。必要なエンリッチメント・ルールを選択します。最大 15 項目を選択できます。
関連タスク	96 ページの「定期的にアクティブ化されるタスクの定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<カラム ヘッダのクリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<カラム・ヘッダの右クリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
アクション	スケジューラで実行できるアクションのリストについては、99 ページの「スケジューラのアクション」を参照してください。


スケジューラのアクション

本項では、スケジューラで実行できるアクションのリストについて説明します。

- ▶ **ビューでディスカバリを再実行**：選択したビュー内の CI に対してディスカバリを実行します。これにより、重要なビューの CI を更新する頻度を多く（毎日などに）しながら、インフラストラクチャ全体の一般的なディスカバリの頻度を少なく（週 1 回などに）設定できます。
- ▶ **エンリッチメント・ルールを実行**：選択したエンリッチメント・ルールを設定されたスケジュールに従ってアクティブ化します。[次へ] をクリックすると、使用可能なエンリッチメント・ルールが表示され、必要なルールを選択できます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

[フィルタ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[ジョブ スケジューラ] ページに表示されたタスクをフィルタ処理できます。



利用方法	[ジョブ スケジューラ] ページで [フィルタ]  ボタンをクリックします。
関連タスク	96 ページの「定期的アクティブ化されるタスクの定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<カラム ヘッダのクリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックスを参照してください。
<カラム・ヘッダの右クリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックスを参照してください。
条件	ボックス内をクリックし、必要な演算子を選択します。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「属性演算子の定義」を参照してください。
表示名	次のいずれかに基づいて、タスク・リストがフィルタされます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ アクティブ ▶ ジョブ定義 ▶ 最終実行時間 ▶ 名前 ▶ 次の実行時間 ▶ スケジュール 詳細については、[ジョブ スケジューラ] ページを参照してください。
値	このボックスの内部をクリックし、必要な値を入力または選択します。

[ジョブ定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、作成したジョブにアクションを追加し、アクションの実行頻度を定義できます。

利用方法	『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[インテグレーション ジョブ] 表示枠」の [スケジュール] タブで [追加]  ボタンをクリックします。 または [ジョブ スケジューラ] ページで [追加]  ボタンをクリックします。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 97 ページの「アクションの選択」 ▶ 97 ページの「タスクのスケジュール設定」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。






UI 要素	説明
ジョブ定義	このジョブの詳細（任意指定）。
名前	ジョブの名前です。

[アクション] 表示枠

この領域では、作成したタスクに必要なアクションを追加できます。

関連タスク	97 ページの「アクションの選択」
-------	-------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	タスクにアクションを追加します。[アクション定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
	既存のアクションを編集します。
	アクションを削除します。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。
アクション定義	[アクション定義] ダイアログ・ボックスで追加するアクションとして選択したアクションの詳細が表示されます。
名前	ジョブに追加されたアクションの名前が表示されます。




[スケジューラ] 表示枠


この領域では、タスクをアクティブ化するスケジュールを設定できます。

関連タスク	97 ページの「タスクのスケジュール設定」
関連情報	549 ページの「Cron 式」

第 6 章・スケジューラ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	サーバの正しいタイムゾーンが自動的に設定されます。
	（[Cron] を選択すると表示されます）クリックすると、入力した cron 式が検証されます。
< [スケジュール] オプション >	<p>タスクのスケジュールに必要なオプションを選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 1 回：タスクを 1 回だけアクティブ化します。 ▶ 間隔：設定した間隔でアクションがアクティブ化されます。 ▶ 日ごと：タスクを毎日実行します。 ▶ 週ごと：タスクを毎週実行します。 ▶ 月ごと：タスクを毎月実行します。 ▶ Cron：cron 式を使ってジョブのスケジュールを設定します。cron 式で使用されるフィールドとその使用例については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』（PDF）の「Cron 式」を参照してください。
Cron 式	cron 式を適切な形式で入力します。cron 式で使用されるフィールドとその使用例については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』（PDF）の「Cron 式」を参照してください。
日数	<p>（[月ごと] を選択すると表示されます）[日数] ボックスの右にある  ボタンをクリックして、アクションを実行する日を選択します。</p> <p>[必要な日数を追加] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
曜日（日曜日～土曜日）	（[週ごと] を選択すると表示されます）アクションを実行する曜日を 1 つまたは複数選択します。

UI 要素	説明
終了時刻	<p>([1 回]を選択したときは表示されません)[終了時刻]チェック・ボックスを選択して、右側の下向き矢印をクリックすることにより、アクションの実行を停止する日時を選択します。</p> <p>注: この手順は任意指定です。終了日時を指定しない場合は、[終了時刻] チェック・ボックスを未選択のままにしてください。</p>
呼び出し時間	<p>アクションをアクティブ化する時間を選択します。[呼び出し時間] ボックスの右にある  ボタンをクリックすると、[時間を選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[時間を選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p>注: [時間を選択] ダイアログ・ボックスを使って時間を選択した後は、[呼び出し時間] ボックスに手で時間を入力できます。時間は複数指定できます。各時間をカンマで区切って指定します。</p> <p>手で入力するアクション時間は、1 時間や 30 分の単位に限定されません。時間と分を自由に組み合わせて指定できます。24 時間形式を使用してください。</p> <p>たとえば、</p> <p>朝 11:15 は 11:15 と表示されます。</p> <p>夜 11:15 は 23:15 と表示されます。</p> <p>注: このボックスは、タスクを日ごと、週ごと、または月ごとに実行するときだけ使用できます。</p>
呼び出し時間	<p>([1 回] を選択したときに表示されます) 右側の下向き矢印をクリックし、アクションの実行を開始する日時を選択します。</p>
月 (1 月～ 12 月)	<p>([月ごと] を選択すると表示されます)。アクションを実行する月を 1 つまたは複数選択します。</p>
繰り返し間隔	<p>([間隔] を選択したときのみ表示されます) 連続実行時の間隔の値を入力し、必要な時間測定単位 (分, 時間, または日毎) を選択します。</p>





UI 要素	説明
開始時刻	<p>([1 回]を選択したときは表示されません)[開始時刻]チェック・ボックスを選択して、右側の下向き矢印をクリックすることにより、アクションの実行を開始する日時を選択します。</p> <p>注: この手順は任意指定です。開始日時を指定しない場合は、[開始時刻] チェック・ボックスを未選択のままにしてください。</p>
タイムゾーン	必要なタイムゾーンを設定します。




[ジョブ スケジューラ] ページ

このページでは、定期的アクティブ化されるタスクを定義できます。たとえば、毎日午後 3:00 にトポロジ・レポートを生成するタスクを定義できます。または、特定のビューのスナップショットを毎日取るようスケジュールを定義できます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [スケジュール] を選択するか、[マネージャ] > [管理] > [スケジュール] を選択します。
関連タスク	96 ページの「定期的アクティブ化されるタスクの定義」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	ジョブを作成し、スケジュール設定します。[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
	タスクを編集します。[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
	ジョブを削除します。
	[フィルタ]ダイアログ・ボックスを開き、[ジョブ スケジューラ] ページに表示されたスケジュール済みジョブをフィルタ処理できます。

UI 要素	説明
	[フィルタ] ダイアログ・ボックスで作成したフィルタ定義をクリアします。
	カラムの表示順序の変更、カラムの非表示、または非表示のカラムの表示を行います。[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	[ジョブ スケジューラ] ページのジョブの表示を更新します。
<カラム ヘッダのクリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<カラム・ヘッダの右クリック>	詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
アクティブ	このチェック・ボックスを選択すると、スケジュール設定されたジョブがアクティブ化されます。
ジョブ定義	[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスの [定義] ボックスで定義された、スケジュール設定されたジョブの説明です。
最終実行時間	このジョブが最後に実行された時間です。
名前	スケジュール設定されたジョブの名前です。
次の実行時間	このジョブが次に実行される時間です。
スケジュール	このジョブに設定された実行頻度です。詳細については、101 ページの「[スケジューラ] 表示枠」を参照してください。

[必要な日数を追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、アクションをアクティブ化する日を選択できます。


利用方法	[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスで [月ごと] をクリックし、  [日数] ボックスの右側にあるボタンをクリックします。
関連タスク	96 ページの「定期的にアクティブ化されるタスクの定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<1 ~ 31 日のリスト>	該当するチェック・ボックスを選択して、必要な日を選択します。複数の日を選択できます。 選択した日は [日数] ボックスに表示されます。詳細については、[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスの [スケジューラ] 表示枠を参照してください。

[時間を選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、アクションをアクティブ化する時間を選択できます。

利用方法	[ジョブ定義] ダイアログ・ボックスで [日ごと]、[週ごと]、または [月ごと] をクリックし、[呼び出し時間] ボックスの右にある  ボタンをクリックします。
関連タスク	96 ページの「定期的にアクティブ化されるタスクの定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
<30 分単位の時間のリスト>	該当するチェック・ボックスを選択して、必要な時間を選択します。複数の時間を選択できます。 選択した時間は [呼び出し時間] ボックスに表示されます。詳細については、103 ページの「呼び出し時間」を参照してください。

第 III 部

ユーザの設定および使用

7

ユーザとロール

本章の内容

概念

- ▶ ユーザとロールの概要 (110 ページ)

タスク

- ▶ ユーザおよびロールの設定 (111 ページ)
- ▶ ユーザのパスワードの変更 (112 ページ)

参照先

- ▶ [ユーザとロール] のユーザ・インタフェース (113 ページ)
- ▶ **トラブルシューティングと制限事項** (120 ページ)

概念

ユーザとロールの概要

ユーザまたはロールを作成するときは、ユーザまたはロールが実行できる操作を定義します。ロールによって、ユーザに組織での責任に応じた権限を割り当てることができます。たとえば、ユーザが TQL クエリを作成できるロールを作成したり、ユーザがビューを作成できるが、既存の TQL クエリは編集できないロールを作成することができます。

これらのユーザやロールに管理者またはゲスト・アクセス権を割り当て、必要に応じて、セキュリティ・マネージャで付加的な権限（ユーザがビューを表示できる権限など）を指定できます。詳細については、125 ページの「セキュリティ・マネージャ」を参照してください。

注： [ユーザとロール] の各ページを使用できるのは、**admin** または管理者アクセス権でログインした場合のみです。

タスク

ユーザおよびロールの設定

次の手順に従って、システムでユーザを設定します。

1 ロールを定義する

ロールは、同じアクセス権を割り当てるユーザのグループです。詳細については、110 ページの「ユーザとロールの概要」と 117 ページの「[ロール] タブ」を参照してください。

2 ロールにアクセス権を割り当てる

HP Universal CMDB にアクセスする権限をロールに割り当てます。詳細については、127 ページの「セキュリティの設定」と 130 ページの「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

注：ベスト・プラクティスの観点から、アクセス権はロールのみに割り当て、適切なアクセス権のあるロールとユーザを関連付けることをお勧めします。

Web サービス・ユーザへのアクセス権割り当ての詳細については、117 ページの「[ロール] タブ」を参照してください。

例 - ロール階層の作成：

組織で、あるチームが Oracle データベースを維持管理していて、別のチームが Microsoft SQL Server データベースを維持管理しています。チーム・リーダーは 2 つのデータベースを理解する必要があります。次のようにして、ロール階層を作成できます。

- 1 `dba_oracle` と `dba_mssql` という 2 つのロールを作成し、最初のロールに Oracle ビューへのアクセス権を、もう 1 つのロールに SQL サーバ・ビューへのアクセス権を与えます。詳細については、130 ページの「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。
- 2 `dba` という別のロールを作成し、Oracle および SQL サーバ・ビューへのアクセス権を与えます。

3 ユーザを定義する

ユーザの定義の詳細については、119 ページの「[ユーザ] タブ」を参照してください。ユーザを定義するときは、ユーザに 1 つ以上のロールを関連付けます。詳細については、110 ページの「ユーザとロールの概要」を参照してください。

4 ユーザのプロファイルを定義する

タイム・ゾーンやロケールなど、特定のユーザの設定を行います。詳細については、121 ページの「ユーザ・プロファイル」を参照してください。

ユーザのパスワードの変更

パスワード変更の詳細については、116 ページの「[パスワードのリセット] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

注：CMDB が LDAP 認証を使用するように設定されている場合、パスワードの変更オプションは表示されません。

参照先


[ユーザとロール] のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ [新規ユーザの追加] ウィザード (113 ページ)
- ▶ [新規ロール / ロールを編集] ダイアログ・ボックス (115 ページ)
- ▶ [パスワードのリセット] ダイアログ・ボックス (116 ページ)
- ▶ [ロール] タブ (117 ページ)
- ▶ [ユーザ] タブ (119 ページ)

[新規ユーザの追加] ウィザード

このウィザードでは、ユーザを作成できます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの「 管理 」モジュールから「 ユーザとロール 」を選択するか、「 マネージャ 」 > 「 管理 」 > 「 ユーザとロール 」 > 「 ユーザ 」タブを選択します。「 新規ユーザの追加 」  ボタンをクリックします。
重要情報	新規ユーザを定義する前に、ロールを定義することをお勧めします。詳細については、117 ページの「 [ロール] タブ 」を参照してください。
関連タスク	112 ページの「ユーザを定義する」
ウィザード・マップ	[新規ユーザの追加] ウィザードには次のページがあります。 [ユーザ名およびパスワード] ページ > [ユーザ詳細] ページ > [ロールリスト] ページ

[ユーザ名およびパスワード] ページ

このウィザードでは、ユーザに名前とパスワードを割り当てることができます。

ウィザード・マップ	<p>[新規ユーザの追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ユーザ名およびパスワード] ページ > [ユーザ詳細] ページ > [ロールリスト] ページ</p>
------------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
パスワード確認入力	[パスワード] ボックスに入力したパスワードを入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
ユーザ名	一意のユーザ名を入力します。

[ユーザ詳細] ページ

このウィザード・ページでは、ユーザの詳細を追加できます。

ウィザード・マップ	<p>[新規ユーザの追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[ユーザ名およびパスワード] ページ > [ユーザ詳細] ページ > [ロールリスト] ページ</p>
------------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
<p>受信者を更新</p> <p>注:このリンクは[ユーザ] タブの [詳細] タブにのみ表示されます。ウィザード・ページには表示されません。</p>	<p>選択したユーザの名前と電子メール・アドレスを受信者マネージャに追加したり、受信者マネージャに現在表示されている受信者の既存の電子メール・アドレスを更新したりすることができます。詳細については、135 ページの「受信者マネージャ」を参照してください。</p>

[ロール リスト] ページ

このウィザード・ページでは、ユーザに1つ以上のロールを関連付けることができます。



重要情報	ロールを選択しない場合は、セキュリティ・マネージャでユーザのアクセス権を有効にする権限を割り当てる必要があります。詳細については、130ページの「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。
ウィザード・マップ	[新規ユーザの追加] ウィザードには、次のページが含まれています。 [ユーザ名およびパスワード] ページ > [ユーザ詳細] ページ > [ロール リスト] ページ
関連情報	117 ページの「[ロール] タブ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< ロールのリスト >	標準設定およびカスタム・ロールのリストが含まれています。詳細については、130ページの「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

[新規ロール / ロールを編集] ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスでは、管理者はロールを作成、管理し、特定の操作を実行する権限を各ロールに割り当てることができます。たとえば、dba というロールには、すべてのデータベース・ビューを表示し、新規ビューを作成する権限があります。

利用方法	[ロール] タブで [新規ロール]  または [ロールを編集]  ボタンをクリックします。
関連タスク	111 ページの「ユーザおよびロールの設定」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< ロール >	<p>[ロール] タブの [ロール リスト] に表示されるロールのリストが含まれます。</p> <p>新規ロールに権限を割り当てるロールを選択します。</p> <p>注： [ロール リスト] からロールを選択しない場合は、セキュリティ・マネージャでロールのアクセス権を有効にする権限を割り当てる必要があります。詳細については、130ページの「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。</p>
詳細	定義するロールの詳細を入力します。
名前	ロールの一意の名前を入力します。

[パスワードのリセット] ダイアログ・ボックス




説明	<p>パスワードを変更できます。管理権限を持っている場合は、ほかのユーザのパスワードを変更できます。</p> <p>利用方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザの場合（管理者がユーザ名を作成し終えていて、管理者からユーザ名とパスワードを通知されていることが条件）：[マネージャ] > [管理] > [ユーザ プロファイル] を選択し、[パスワード変更] をクリックします。 ▶ 管理者：[マネージャ] > [管理] > [ユーザとロール] > [ユーザ] タブの順に選択します。ユーザを選択し、[パスワードのリセット]  ボタンをクリックします。
重要情報	パスワードは大文字と小文字が区別されます。


[ロール] タブ

このタブでは、ロールを作成、編集、削除できます。たとえば、ユーザが TQL クエリを作成できるロールを作成したり、ユーザがビューを作成できるが、既存の TQL クエリは編集できないロールを作成することができます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [ユーザとロール] を選択するか、 [マネージャ] > [管理] > [ユーザとロール] > [ロール] タブ を選択します。
重要情報	Web サービスをより安全にするには、特定のユーザを作成して、Web サービスにアクセス権を割り当てます。各ユーザに強力なパスワードを与えます。 [ユーザ] タブで [Web サービスユーザ] を選択して [パスワードのリセット] をクリックします。詳細については、下記の [Web サービス ロール] を参照してください。
関連タスク	111 ページの「ユーザおよびロールの設定」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	[新規ロール] ：ロールを作成します。 [新規ロール] ダイアログ・ボックスを開きます。
	[選択した項目の削除] ：選択したロールを削除します。複数の選択を行うことができます。
	[保存] ：行った変更を保存します。







UI 要素	説明
	<p>[ロールを編集]: 既存のロールを編集します。[ロールを編集] ダイアログ・ボックスを開きます。</p>
<p>< ロールのリスト ></p>	<p>標準設定ロールおよびカスタム・ロールの名前と詳細が表示されます。</p> <p>標準設定のロールは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Admin: このロールを持ったユーザは、すべての機能に無制限にアクセスできます。 ▶ Guests: 標準設定では、このロールを持つユーザは、現在ログインしているユーザのプロファイルにのみアクセスできます。 ▶ Web サービス ロール: HP Universal CMDB API または Discovery と Dependency Mapping API を使って CMDB にデータを書き込むユーザには、CMDB に対する権限を与える必要があります。 次のロールによって、API 作成者は CMDB を操作できます。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ CmdbOpenApiClassModel: このロールを持ったユーザは CIT に操作を行えます。 ▶ CmdbOpenApiImpact: このロールを持ったユーザは CMDB に影響操作を行えます。 ▶ CmdbOpenApiQuery: このロールを持ったユーザは CMDB にクエリを送信し、応答を受信できます。 ▶ CmdbOpenApiUpdate: このロールを持ったユーザは CMDB を変更内容で更新できます。 <p>API 作成の詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』(PDF) の「HP Universal CMDB Web サービス API に関するトピック」を参照してください。</p>



[ユーザ] タブ

このタブでは、ユーザの定義や既存のユーザの編集ができます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [ユーザとロール] を選択するか、 [マネージャ] > [管理] > [ユーザとロール] > [ユーザ] タブ を選択します。
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザを作成して、ロールとアクセス権限を割り当てる手順全体の詳細については、111 ページの「ユーザおよびロールの設定」を参照してください。 ▶ [ロール] タブの詳細については、117 ページの「[ロール] タブ」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	[新規ユーザの追加] : ユーザを作成できます。 [新規ユーザの追加] ウィザードを開きます。
	[選択した項目の削除] : ユーザ名を削除します。複数の選択を行うことができます。
	[保存] : 行った変更を保存します。
	[更新] : ほかのユーザが変更した可能性があるデータ内容を更新します。
	[パスワードのリセット] : 選択したユーザのパスワードをリセットします。
	<p>[選択したユーザで受信者マネージャを更新] : 選択したユーザの名前と電子メール・アドレスを受信者マネージャに追加できます。</p> <p>複数の選択を行うことができます。このボタンによって、一度に複数の受信者が更新されます。詳細については、135 ページの「受信者マネージャ」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
<ユーザのリスト>	<p>標準設定およびカスタム・ユーザのリストが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶  : 管理者アクセス権を持っているユーザを示します。 ▶  : 管理者アクセス権を持っていないユーザを示します。 <p>標準設定のユーザは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Administrator (管理者) : 管理者アクセス権のあるユーザとロールは、すべての機能に無制限でアクセスできます。管理者は標準設定ユーザおよびロールのアクセス権を編集できます。 ▶ admin (管理) : 管理アクセス権を持ったユーザとロールは、管理者と同じアクセス権を有しています。 ▶ guest (ゲスト) : 標準設定では、このロールを持つユーザは、現在ログインしているユーザのプロファイルにのみアクセスできます。
[詳細] タブ	要求に応じて、ユーザの詳細を編集します。詳細については、114 ページの「[ユーザ詳細] ページ」を参照してください。
完全名	[詳細] タブで定義されたユーザの氏名です。詳細については、114 ページの「[ユーザ詳細] ページ」を参照してください。
[ロール] タブ	ユーザとさまざまなロールを関連付けます。詳細については、115 ページの「[ロール リスト] ページ」を参照してください。
[プロファイル] タブ	タイム・ゾーンやロケールなど、特定のユーザの設定を編集します。詳細については、124 ページの「[ユーザ プロファイル] ページ」を参照してください。
ユーザ名	ユーザの名前です。

トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは、ユーザとロールのトラブルシューティングと制限事項について説明します。

新規ユーザの名前が全角 20 文字を超える場合は、新規ユーザを作成できません。新規ユーザの作成の詳細については、119 ページの「[ユーザ] タブ」を参照してください。

8

ユーザ・プロフィール

本章の内容

概念

- ▶ ユーザ・プロフィールの概要 (122 ページ)

タスク

- ▶ ユーザ・プリファレンスの定義 (123 ページ)

参照先

- ▶ [ユーザ プロファイル] のユーザ・インタフェース (124 ページ)

概念

ユーザ • プロファイルの概要

タイム・ゾーンやユーザのパスワードの変更など、現在ログインしているユーザのプロファイルを設定できます。詳細については、124 ページの「[ユーザ プロファイル] ページ」を参照してください。

注：管理者は、[ユーザとロール] の [ユーザ] ページを使用して、すべてのユーザのプロファイルを設定できます。詳細については、119 ページの「[ユーザ] タブ」を参照してください。

タスク

ユーザ・プリファレンスの定義

現在ログインしているユーザのプリファレンスを設定します。詳細については、124 ページの「[ユーザ プロファイル] ページ」を参照してください。

参照先

[ユーザ プロファイル] のユーザ・インタフェース

本項の内容

▶ [ユーザ プロファイル] ページ (124 ページ)

[ユーザ プロファイル] ページ

このページでは、現在ログインしているユーザのプリファレンスを設定できます。

利用方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 管理ユーザ：ユーザを選択し、[ユーザとロール] の [ユーザ] ページで [プロフィール] タブをクリックします。詳細については、119 ページの「[ユーザ] タブ」を参照してください。 ▶ 非管理ユーザ：ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [ユーザ プロファイル] を選択するか、[マネージャ] > [管理] > [ユーザ プロファイル] を選択します。
重要情報	非管理ユーザは、ここで自分のパスワードを変更できます。
関連タスク	123 ページの「ユーザ・プリファレンスの定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
パスワードの変更	クリックすると、[パスワードの変更] ダイアログ・ボックスが開きます。古いパスワードと新しいパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
タイムゾーン	ユーザの所在地に基づいて適切なタイムゾーンを選択します。

9

セキュリティ・マネージャ

本章の内容

概念

- ▶ セキュリティ・マネージャの概要 (126 ページ)

タスク

- ▶ セキュリティの設定 (127 ページ)
- ▶ アクセス権の割り当て (127 ページ)

参照先

- ▶ セキュリティ・マネージャのユーザ・インタフェース (128 ページ)

概念

セキュリティ・マネージャの概要

TQL クエリ、ビュー、ドメイン・インスタンス、構成アイテム・タイプ、およびカスタムのオプションに対するアクセス権をロールに割り当てます。ロールにアクセス権を割り当てたら、ユーザを作成してユーザにロール（1 つまたは複数）を関連付けることで、アクセス権をユーザに割り当てます。

また、適切なマネージャ（影響分析、CI タイプ・マネージャなど）に対するアクセス権も割り当てる必要があります。たとえば、ロールに表示権限を与えるには、モデリング・スタジオに対するアクセス権をロールに与えます。

ユーザは HP Universal CMDB を起動すると、ユーザに与えられた権限に対応するアクションを利用できます。たとえば、新しいロールを作成する権限がユーザに割り当てられていない場合、[管理] モジュールの [ユーザとロール] オプションは利用できません。特定のマネージャを表示する権限がユーザに割り当てられていない場合は、そのマネージャは HP Universal CMDB に表示されません。

タスク

セキュリティの設定

権限を割り当てるロール（推奨）またはユーザを選択します。詳細については、128 ページの「[ロールとユーザの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

アクセス権の割り当て

リソースに対する権限を有効にします。詳細については、130 ページの「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

参照先


セキュリティ・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容





- ▶ [ロールとユーザの選択] ダイアログ・ボックス (128 ページ)
- ▶ [セキュリティ マネージャ] ページ (130 ページ)



[ロールとユーザの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、アクセス権を割り当てるロールまたはユーザを選択できます。

利用方法	[ロール/ユーザ] 表示枠で [追加] ボタン  をクリックします。
重要情報	表示されるロールとユーザは、[ユーザとロール] で定義します。 詳細については、109 ページの「ユーザとロール」を参照してください。
関連タスク	127 ページの「セキュリティの設定」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	[選択されたロールとユーザへ移動] : ロールまたはユーザが [選択されたロールとユーザ] 表示枠に移動されます。
	[定義されたロールとユーザへ移動] : ロールまたはユーザが [定義されたロールとユーザ] 表示枠に移動されます。
	[選択されたロールとユーザへすべて移動] : すべてのロールとユーザが [選択されたロールとユーザ] 表示枠に移動されます。
	[定義されたロールとユーザへすべて移動] : すべてのロールとユーザが [定義されたロールとユーザ] 表示枠に移動されます。

UI 要素	説明
【定義されたロールとユーザ】表示枠	【ロールとユーザ】で定義されたロールとユーザのリストが含まれています。
詳細	ロールまたはユーザの詳細です。
名前	ロールまたはユーザの名前です。
【選択されたロールとユーザ】表示枠	選択したリソースに対する権限を割り当てるロールまたはユーザです。
タイプ	 は、ユーザを表します。  は、ロールを表します。

[セキュリティ マネージャ] ページ

このページでは、アクションを表示、作成、更新、削除、または実行するアクセス権を割り当てられます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [セキュリティ マネージャ] を選択するか、 [マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] を選択します。
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 権限を割り当てるときは、適切なマネージャに対するアクセス権も割り当てる必要があります。たとえば、ロールに表示権限を与えるには、モデリング・スタジオに対するアクセス権をロールに与えます。 ▶ 通常のユーザに、[マネージャ] > [管理] > [ユーザとロール] メニュー・オプションへのアクセス権を与えないください。これは、管理者がこのメニュー・オプションからほかのユーザのパスワードを上書きできるためです。ユーザは、[パスワード変更] オプションから自分のパスワードを変更できます。詳細については、121 ページの「ユーザ・プロフィール」を参照してください。 ▶ アクセス権はロールだけに割り当てて、適切なアクセス権を持つロールにユーザを関連付けることをお勧めします。 ▶ フォルダ・レベルでアイテムを選択することはできません。 ▶ ルート・レベルで選択した場合、ユーザまたはロールは、ルートに含まれているすべてのアイテムに対するアクセス権を与えられます。 ▶ 子リソースは、親または権限が割り当てられている最も近い親に割り当てられている権限を継承します。たとえば、権限を node に割り当てると、その子 (atmswitch, concentrator など) は node に割り当てられている権限を継承します。
関連タスク	127 ページの「アクセス権の割り当て」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
[CI タイプ] タブ	選択した CI タイプに対して特定の操作を実行する権限をユーザに与えられます。

UI 要素	説明
[カスタマイズ] タブ	<p>別の UCMDB モジュールにおいて、特定の操作を表示、更新、または実行する権限をユーザに与えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [モデリング] : UCMDB の各マネージャにアクセスしてトポロジ・レポートおよびカスタム・レポートを生成する権限を与えます。 ▶ [データフロー管理] : DFM ジョブのアクティブ化, DFM ウィザードの実行, DFM ジョブのスケジュールの定義, DFM パターンの振る舞いの上書き, DFM TQL クエリの編集の権限を与えます。 注 : 実行権限には、機能の表示および更新が含まれます。 ▶ [管理] : 選択したアプリケーションで表示または操作を実行する権限をユーザに与えます。 ▶ [一般アクション] <ul style="list-style-type: none"> ▶ [スナップショット] : スナップショットを作成する権限を与えます。 ▶ [パスワード変更] : ユーザ・パスワードを変更する権限を与えます。 ▶ [CI パーミッションの検索] : [CI の選択] 検索オプションにアクセスする権限をユーザに与えます。 ▶ [関連 CI パーミッションの取得] : 関連する CI のデータを表示する権限をユーザに与えます。 ▶ [データ変更パーミッション] : IT ユニバース・マネージャの CI を変更する権限をユーザに与えます。 ▶ [SDK ヘアアクセス] : SDK へ接続する権限をユーザに与えます。
[ドメイン] タブ	DFM ドメイン資格情報と、DFM プローブのネットワーク・アドレスの範囲を編集する権限をユーザに与えます。
[クエリ] タブ	選択した TQL クエリを表示、更新、または削除する権限をユーザに与えます。
[ビュー] タブ	選択したビューを表示、更新、または削除する権限をユーザに与えられます。

[リソース] 表示枠

この領域には、選択したタブのリソース・ツリーが表示されます。




ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
< 選択したタブのリソース >	アクセス権を割り当てるリソースを選択します。

[ロール / ユーザ] 表示枠

この領域には、選択したリソースに対する権限を割り当てるユーザまたはロールが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	選択したリソースに対する権限を割り当てるユーザまたはロールを選択します。
	選択したリソースに対して選択したユーザまたはロールが削除されます。
	選択したリソースに対するすべてのユーザとロールが削除されます。

【権限】表示枠

この領域では、システムで定義した特定のリソース、およびそのインスタンスに対する権限をロールとユーザに適用できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
権限	<p>リソースに対する権限を有効にするには、最初にアクセス権を割り当てるロールまたはユーザを選択します。次に、ユーザまたはロールに実行を許可するアクションの横にあるチェック・ボックスを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【表示】：ロールまたはユーザは、リソースを表示できますが変更できません。 ▶ 【作成】：ロールまたはユーザは、新しいリソースを定義できます。 ▶ 【更新】：ロールまたはユーザは、既存のリソースを更新できます。 ▶ 【削除】：ロールまたはユーザは、リソースを CMDB から削除できます。 ▶ 【実行】：ロールまたはユーザは、スクリプトの実行などのアクションを実行できます。 <p>注：選択したリソースに関する権限だけが有効になります。</p>

10

受信者マネージャ

本章の内容

概念

- ▶ 受信者マネージャの概要 (136 ページ)

タスク

- ▶ 電子メール受信者の定義 (137 ページ)

参照先

- ▶ 受信者マネージャのユーザ・インタフェース (138 ページ)

概念

受信者マネージャの概要

受信者マネージャでは、スケジュール設定されたレポートを一定の間隔で、レポート・モジュールから電子メールとして自動的に受信できる受信者を定義できます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF)の「レポート」を参照してください。

タスク

電子メール受信者の定義

[受信者マネージャ] ページの [追加] ボタンをクリックし、受信者の名前と電子メール・アドレスを入力して、新しい電子メール受信者を作成します。詳細については、138 ページの「[メール受信者を追加] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

参照先


受信者マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容



- ▶ [メール受信者を追加] ダイアログ・ボックス (138 ページ)
- ▶ [受信者マネージャ] ページ (139 ページ)

[メール受信者を追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい電子メール受信者の作成や、既存の電子メール受信者のプロパティの編集ができます。


利用方法	<ul style="list-style-type: none">▶ 新しい電子メール受信者を作成するには、[受信者マネージャ] ページの [追加] ボタンをクリックします。▶ 既存の受信者のプロパティを編集するには、該当する受信者を選択し、 ボタンをクリックします。
関連タスク	137 ページの「電子メール受信者の定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI 要素	説明
	クリックして、受信者の電子メール・アドレスを追加します。複数の電子メール・アドレスを追加できます。
	クリックして、選択した電子メール・アドレスを削除します。
名前	電子メール受信者の名前を入力します。

[受信者マネージャ] ページ

このページでは、新しい電子メール受信者の作成や、既存の電子メール受信者のプロパティの編集ができます。

利用方法	ナビゲーション・メニューの 「管理」 モジュールから 「受信者マネージャ」 を選択するか、 「マネージャ」 > 「管理」 > 「受信者マネージャ」 を選択します。
重要情報	[受信者マネージャ] ページに表示される受信者は、レポートで定義された電子メール受信者で更新されます（ 「定期レポート」 ダイアログ・ボックスに 「送信先」 ボックスの 「アドレス帳を開く」  ボタンをクリックして、 「メッセージの受信者」 ダイアログ・ボックスを開きます）。
関連タスク	スケジュール設定されたレポートをレポート・マネージャから電子メールとして自動的に受信できるのは、ここで電子メール・アドレスを定義した受信者だけです。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	新しい電子メール受信者を定義します。
	選択した受信者を編集します。
	選択した受信者を削除します。
電子メール	電子メール受信者の電子メール・アドレスです。
名前	電子メール受信者の名前です。

11

LDAP マッピング

本章の内容

概念

- ▶ LDAP マッピングの概要 (142 ページ)

タスク

- ▶ HP Universal CMDB ユーザ・ロールと LDAP グループとの同期化 (143 ページ)
- ▶ Active Directory の LDAP の設定 (146 ページ)

参照先

- ▶ LDAP マッピングのユーザ・インタフェース (148 ページ)

概念

LDAP マッピングの概要

LDAP サーバでは、ユーザを認証できます。また、LDAP サーバは LDAP サーバ上のユーザ・グループを HP Universal CMDB のロールにマッピングするためのユーザ・リポジトリとして使用できます。

ナビゲーション・バーの [管理] セクションの [LDAP マッピング] モジュールを使用して、HP Universal CMDB ユーザ・ロールと LDAP グループを関連付けることができます。[LDAP マッピング] モジュールが [管理] の下に表示されるのは、ユーザに必要な権限がある場合のみです。詳細については、109 ページの「ユーザとロール」を参照してください。

HP Universal CMDB グループとの LDAP グループの同期の詳細については、143 ページの「HP Universal CMDB ユーザ・ロールと LDAP グループとの同期化」を参照してください。

LDAP 認証の設定の詳細については『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(PDF) の「LDAP 認証メソッドの有効化と定義」を参照してください。

タスク

HP Universal CMDB ユーザ・ロールと LDAP グループとの同期化

このタスクでは、LDAP ユーザ・グループを HP Universal CMDB ユーザ・ロールと同期させる方法について説明します。

1 LDAP 同期化方策を設定するためのインフラストラクチャ設定

LDAP 認証の同期を設定するには、まずインフラストラクチャ設定マネージャで設定を変更する必要があります。

注： [LDAP 全般] > [リモートユーザのリポジトリモード] および [LDAP 全般] > [ユーザの同期化を有効化] に加えたインフラストラクチャ設定の変更は、今後のすべての Web セッションで適用されます。

- a [マネージャ] > [管理] > [インフラストラクチャ設定マネージャ] の順に選択します。
- b [LDAP 全般] を選択し、[LDAP サーバ URL] 設定に、LDAP サーバの URL を次の形式で入力します。

```
ldap://<ldapHost>:<port>/<baseDN>??scope
```
- c [LDAP グループ定義] を選択し、[グループのベース DN] 設定に、一般グループの識別名を入力します。
- d [LDAP グループ定義] を選択し、[ルートグループのベース DN] 設定に、ルート・グループの識別名を入力します。
- e [LDAP 全般] を選択し、[ユーザの同期化を有効化] 設定で、値が True に設定されていることを確認します。

注意：この手順で説明した LDAP 設定に加えて、すべての LDAP 設定を確認することを強くお勧めします。ほかの LDAP 設定に指定されている標準設定値の中には、ユーザのニーズに適さないものがある可能性があります。

- f** [マネージャ] > [管理] > [LDAP マッピング] の順に選択して、LDAP サーバで設定された LDAP グループのリストが [LDAP リポジトリ] 表示枠に表示されることを確認します。LDAP グループのリストが表示されない場合は、LDAP 設定を確認してください。

インフラストラクチャ設定の詳細については、48 ページの「インフラストラクチャ設定マネージャの概要」を参照してください。

注：JMX コンソールを使用してこれらを設定することも可能です。詳細については、『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(PDF) の「JMX コンソールを使用して LDAP 認証を設定」を参照してください。

2 HP Universal CMDB ロールの作成

リモート LDAP サーバに割り当てることができるローカル HP Universal CMDB ロールを作成できます。HP Universal CMDB ロールの作成方法の詳細については、111 ページの「ユーザおよびロールの設定」を参照してください。

3 LDAP グループを HP Universal CMDB ロールにマッピング

次のように、LDAP サーバ上のユーザ・グループを HP Universal CMDB ロールにマッピングし、LDAP グループと HP Universal CMDB ロールを同期させて、LDAP サーバを使用して HP Universal CMDB ロールを管理できるようにします。

- a** [マネージャ] > [管理] > [LDAP マッピング] の順に選択します。
- b** [LDAP リポジトリ] 表示枠で、リモート・グループを選択して [ロールの割り当て] をクリックし、必要な HP Universal CMDB ロールを選択します。

選択した LDAP グループと同期された HP Universal CMDB ロールが、**[LDAP グループ用の UCMDDB ロール:]** の [ロール名] 表示枠に表示されます。

すべての LDAP グループの既存の同期が、**[LDAP グループから UCMDDB ロールへのマッピング]** 表示枠に表示されます。

注意: マッピングを定義するときは、ログアウトする前に少なくとも 1 つの LDAP グループを CMDB の管理グループにマッピングしてください。この操作を行わなければ、すべてのグループの管理権限が失われる場合があります。

4 HP Universal CMDB からのログアウトおよびログイン

- a [LDAP 全般] > [リモート ユーザのリポジトリ モード] を選択し、値を **True** に設定します。
- b HP Universal CMDB からログアウトし、LDAP ユーザの名前とパスワードで再びログインします。

Active Directory の LDAP の設定

このタスクでは、Active Directory の LDAP を設定する方法を説明します。

LDAP ログインおよびユーザ認証を有効にするには、インフラストラクチャ設定で次のパラメータを編集します。

注：これ以外のパラメータについては、標準設定値または（必要に応じて）LDAP 固有の値を使用できます。

LDAP インテグレーション設定	コメント
検索権限を持つユーザの識別名	CN=AD Connector CN=Users DC=consult DC=example DC=com
ユーザの同期化を有効化	True : HP Universal CMDB ロールとの LDAP グループ・マッピングを有効にします（ [リモートユーザのリポジトリ モー] が True に設定されている場合）。
グループ クラス オブジェクト	グループ
グループのベース DN	CN=Users DC=consult DC=example DC=com
グループのメンバ属性	メンバ
グループ検索フィルタ	(!(objectclass=groupOfNames) (objectclass=group) (objectclass=groupOfUniqueNames)(objectclass=groupOfUrls)(objectclass=accessGroup)(objectclass=accessRole))

LDAP インテグレーション設定	コメント
LDAP サーバ URL	LDAP サーバの URL。 port : ldap : //LDAP-SERVER : 389/ DC=consult,DC=example, DC=com??sub が含まれます。
検索権限のあるユーザのパスワード	*****
リモート ユーザのリポジトリ モード	LDAP 認証を有効にします。
ルート グループのベース DN	同期するすべてのユーザの親 LDAP ノードを定義します。 同期ユーザ・リストのベース DN には、その DN のすべてのユーザが含まれます。ただし、ユーザが同期ユーザ・リスト・フィルタで除外された場合、またはユーザ DN がより詳細な同期ユーザ・リストで一致する場合、そのユーザは除きます。 CN=Users DC=consult DC=example DC=com
ルート グループ フィルタ	(!(objectclass=groupOfNames) (objectclass=group) (objectclass=groupOfUniqueNames)(objectclass=groupOfUrls)(objectclass=accessGroup)(objectclass=accessRole));
ユーザ フィルタ	ユーザを同期ユーザ・リストに含める、または除外する際に使用する LDAP フィルタを定義します。 (&(sAMAccountName=*) (objectclass=user));
ユーザのオブジェクト クラス	ユーザ
UUID 属性 (User Unique ID attribute)	sAMAccountName

参照先

LDAP マッピングのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ LDAP マッピング (148 ページ)

LDAP マッピング


このページでは、HP Universal CMDB で設定したグループを、LDAP サーバで設定したグループにマッピングできます。


利用方法	ナビゲーション・メニューの [管理] モジュールから [LDAP マッピング] を選択するか、 [マネージャ] > [管理] > [LDAP マッピング] を選択します。
-------------	--

[LDAP リポジトリ] 表示枠

この表示枠では、HP Universal CMDB ロールを LDAP グループにマッピングして、LDAP グループとそのユーザを表示できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>[ロールの割り当て] : LDAP グループを HP Universal CMDB ロールにマッピングできます。[割り当てる UCMDB ロールの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループを右クリックしても、このオプションを選択できません。 ▶ 複数のグループを選択するには、SHIFT または CTRL キーを押しながら選択します。


UI 要素	説明
	<p>[ユーザを表示] : 選択した LDAP グループに関連付けられているユーザのリストを表示できます。[リモートグループのユーザ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>注 : グループを右クリックしても、このオプションを選択できます。</p>
<LDAP グループのリスト>	LDAP サーバで設定された LDAP グループのリストを表示します。

[LDAP グループ用の UCMDB ロール :] の [ロール名] 表示枠

この表示枠では、

- ▶ [LDAP リポジトリ] 表示枠で選択した LDAP グループにマッピングされている HP Universal CMDB ロールを表示します。
- ▶ 選択した LDAP グループにマッピングされたマップ済み HP Universal CMDB ロールを削除できます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
	<p>[ロールの削除] : HP Universal CMDB ロールと LDAP グループとの関連付けを削除できます。</p> <p>注 : 複数のロールを一度に削除するには、SHIFT または CTRL キーを押しながら選択します。</p>
ロールの説明	[LDAP リポジトリ] 表示枠で選択した LDAP グループにマッピングされているロールの説明。
ロール名	[LDAP リポジトリ] 表示枠で選択した LDAP グループに割り当てられているロールの名前。

[LDAP グループから UCMDB ロールへのマッピング] 表示枠

この表示枠には、HP Universal CMDB ユーザ・ロールにマッピングされているすべての LDAP ユーザ・グループが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
LDAP グループ	LDAP ユーザ・グループの名前です。
UCMDB ロール	対応する LDAP グループにマッピングされている HP Universal CMDB ユーザ・ロールです。

第 IV 部

CI ライフサイクル

12

CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム

本章の内容

概念

- ▶ エイジング・メカニズムの概要 (154 ページ)
- ▶ CI ライフサイクルの概要 (155 ページ)

タスク

- ▶ エイジング・メカニズムの有効化と実行 (156 ページ)
- ▶ CI ライフサイクル・データの生成と結果のフィルタ (158 ページ)
- ▶ 複数のプローブでの手動負荷分散の有効化 (159 ページ)

参照先

- ▶ CI ライフサイクルのユーザ・インタフェース (160 ページ)
- ▶ エイジングのパラメータ (168 ページ)

概念

エイジング・メカニズムの概要

システムをしばらく実行した後に、以前に検出した CI がすでに存在しなくなっている場合があります。最新の状態に保つために、このような CI は CMDB から削除する必要があります。

データ・フロー管理 (DFM) は定期的に行われ、検出したすべての CI と関係に対して最終アクセス日時を更新します。このプロセスは、「検出」と呼ばれ、システム内のアクティブなコンポーネントを表す CI と関係が削除の候補になるのを防止します。DFM で CMDB に存在する CI が検出されない場合、最終アクセス日時は更新されず、事前に定義した期間（標準設定では 20 日間）が経過した後、その CI は削除の候補になります。エイジング期間は、CI タイプ・マネージャで静的属性として CI タイプごとに設定します（[**Deletion Candidate Period**]）。

削除の候補は、CI ライフサイクル・モジュールによってレビューおよび管理されます。

CI がその後も長期間（標準設定で 40 日間）にわたって検出されないと、エイジング・メカニズムがその CI をシステムから削除します。つまり、エイジングは、指定した期間（標準設定では 40 日）アクセスがなく、関連のなくなった CI と関係を削除します。

大量の CI と関係を削除すると、CMDB とデータベース・サーバに大きな負荷がかかり、CMDB のパフォーマンス全体に影響を与える可能性があります。このパフォーマンスへの影響を抑えるために、エイジング・メカニズムは、削除対象のオブジェクトをチャンクに分割します。チャンク間の遅延によって、データベースの負荷が抑えられ、ほかのタスクの作業を続行できるようになります。削除を早く終わらせるために遅延を短くすることができますが、標準設定の遅延値を使用することをお勧めします。詳細については、168 ページの「エイジングのパラメータ」を参照してください。

注：

- ▶ エイジング・メカニズムは標準設定で無効になっています。
 - ▶ エイジング操作は、[Enable Aging] が [True] に設定された CI と関係に対してのみ実行されます。標準設定で、用意済みの DFM アダプタによって追加された CI と関係は、[Enable Aging] が [True] に設定された状態で作成されます（詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「構成アイテムのプロパティダイアログ・ボックス」で「**エイジングの有効化**」を参照してください）。この動作は、[アダプタ設定] タブ（[結果管理] 表示枠内）の DFM にある [エイジングの有効化] チェック・ボックスで変更できます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』(PDF) の「[結果管理] 表示枠」および 162 ページの「エイジングの有効化」を参照してください。
-

CI ライフサイクルの概要

CI ライフサイクル・アプリケーションでは、エイジング・メカニズムによる削除の候補になっている CI と関係のリストを表示し、エイジング手順を開始できます。また、特定の CI または関係を選択して、その削除を延期したり、それらを削除証明としてマークしたりできます。

CIT ごとに、特定の CI が削除候補になるまでの期間や、CI が実際に削除されるまでの期間を設定できます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「構成アイテムのプロパティダイアログ・ボックス」で「Actual Deletion Period」、 「Deletion Candidate Period」、 「エイジングの有効化」を参照してください。

タスク

エイジング・メカニズムの有効化と実行

このタスクでは、エイジングを有効にし、エイジング・メカニズムを実行する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 156 ページの「エイジングの有効化」
- ▶ 157 ページの「エイジングの最初の実行」

1 エイジングの有効化

[CI ライフサイクル] ページ ([マネージャ] > [管理] > [CI ライフサイクル]) で、[エイジング ステータス] タブにアクセスします。[エイジングの有効化] チェック・ボックスを選択します。詳細については、161 ページの「[エイジング ステータス] タブ」を参照してください。

注：エイジングをオンまたはオフ（有効または無効）にしたら、変更した設定を有効にするためにサーバを再起動する必要があります。

2 エイジングの最初の実行

システムをしばらく実行すると、ほとんどの場合、削除が必要な CI が数多く発生します。CMDB を最新の状態に保つために、この手順を実行する必要があります。

削除する CI の数が 10,000 よりも多い場合、確認メッセージが表示されます。次のオプションのどちらかを選択します。

- ▶ CI ライフサイクルは、削除の必要な CI や関係の数をチャンクに分割し（データベースの過負荷防止のため）、削除してから、情報を履歴データベースに追加します。チャンクのサイズは、インフラストラクチャ設定マネージャの [エイジング チャンク サイズ] フィールドの値によって決まります。

これは、履歴データベースが情報で更新され、サーバのダウンタイムもないため、推奨される削除方法です。

- ▶ **C : %hp%UCMDB%UCMDBServer%tools%dbscripts%dbtool.bat** にあるデータベース・エイジング・ツールを実行します。このオプションを選択する場合は、UCMDB サーバ・サービスを停止する必要があります。

迅速に削除を行う必要がある場合は、この 2 つ目のオプションを選択します。データベース・エイジング・ツールは、エイジング・メカニズムよりはるかに高速です。

注意：このオプションを実行する前に、次の点に注意してください。

- ▶ ツールを実行する前に、サーバを完全にシャットダウンする必要があります。つまり、サーバのダウンタイムが発生します。
 - ▶ データベース・エイジング・ツールの実行後、すべての Data Flow Probe で **clearProbeData.bat** を実行する必要があります。このファイルは、次の場所にあります。**C : %hp%UCMDB%DataFlowProbe%tools.**
 - ▶ 履歴データベースに情報は書き込まれません。
-

データベース・エイジング・ツールを実行するには、次の手順で行います。

- a C MDB データベース・スキーマをバックアップします。このステップは必須です。
- b 実運用環境でツールを実行する前に、テスト環境でツールを実行します。これは推奨ステップです。
- c UC MDB サーバを停止します。
- d ファイル・システムから **dbtool.bat** ファイルを実行します。
- e UC MDB サーバを再起動します。
- f [エイジング ステータス] タブに戻り、エイジングを有効にします。
- g UC MDB サーバに接続されているすべての Data Flow Probe で、**clearProbeData.bat** を呼び出します。

CI ライフサイクル・データの生成と結果のフィルタ

このタスクでは、削除の候補になっている CI のリストを生成し、結果をフィルタする方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 158 ページの「CI ライフサイクル・データの生成」
- ▶ 159 ページの「CI ライフサイクルの結果のフィルタ」

1 CI ライフサイクル・データの生成

CI または関係に対して CI ライフサイクルの結果を生成するには、[CI] タブまたは [関係] タブを選択します。[開始] フィールドと [終了] フィールドのドロップダウン式のカレンダーを使って検索の対象となる期間を選択し、[生成] をクリックします。詳細については、166 ページの「[CI ライフサイクル] ページ」を参照してください。

CI ライフサイクルが、削除の候補となる CI のリストを表示します。

ヒント: 結果が生成されない場合は、期間の終了日時を先に延ばしてください。

2 CI ライフサイクルの結果のフィルタ



CI ライフサイクルのデータをフィルタするには、[**フィルタ**] ボタンをクリックして [フィルタ] ダイアログ・ボックスを開きます。フィルタを設定するカラムごとに、ドロップダウン・リストから条件を選択し、[値] カラムで値を直接入力するか、ドロップダウン・リストから値を選択するか、またはカレンダーを使用して値を設定します。**OK** をクリックしてフィルタを適用します。



フィルタをクリアして元の結果に戻すには、[**クリア**] ボタンをクリックします。詳細については、167 ページの「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

複数のプローブでの手動負荷分散の有効化

複数の Data Flow Probe が同時に UCMDB サーバに検出情報を送信した場合、サーバが過負荷になる場合があります。UCMDB サーバに対して実行されている複数の Data Flow Probe 間で手動負荷分散を有効にするには、次の手順で各プローブが検出を報告する時刻を設定します。

- 1 **DiscoveryProbe.properties** ファイルをテキスト・エディタで開きます。
- 2 次のように **# Is touch window mechanism active** で始まる行を見つけます。

```
# Is touch window mechanism active
appilog.agent.probe.touchWindowMechanism.isActive = false
"# Defines the time when the touch window starts (HH : MM - 00 : 00-23 : 59)
appilog.agent.probe.touchWindowMechanism.startTime = 10 : 00
"# Defines the time when the touch window ends (HH : MM - 00 : 00-23 : 59)
appilog.agent.probe.touchWindowMechanism.endTime = 23 : 59
```

- 3 **appilog.agent.probe.touchWindowMechanism.isActive** パラメータを **true** に変更します。
- 4 プローブが検出を報告する時刻を設定します。
- 5 ファイルを保存します。

これらのパラメータを使用すると、プローブは重複しない時間枠内で「検出」を実行できます。検出の詳細については、154 ページの「エイジング・メカニズムの概要」を参照してください。

参照先


CI ライフサイクルのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ [エイジング実行の統計] ダイアログ・ボックス (160 ページ)
- ▶ [エイジング ステータス] タブ (161 ページ)
- ▶ [CI] タブと [関係] タブ (162 ページ)
- ▶ [CI ライフサイクル] ページ (166 ページ)
- ▶ [フィルタ] ダイアログ・ボックス (167 ページ)

[エイジング実行の統計] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、エイジング・メカニズムの最近 5 回の実行に対して、統計情報を表示できます。

利用方法	[CI ライフサイクル] ページの [統計情報] ボタン  をクリックします。
関連タスク	156 ページの「エイジング・メカニズムの有効化と実行」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
エイジング実行	実行 : 実行の開始時間と終了時間。 削除済み : 削除された CI の数。 失敗 : 削除されなかった CI の数。
エラー	ID : 失敗した (削除できなかった) CI の ID。 エラー メッセージ : 失敗の原因を説明するメッセージ。

[エイジング ステータス] タブ

このダイアログ・ボックスは、エイジング・メカニズムを有効にして初めて実行するときに使用します。

利用方法	ナビゲーション・メニューから [CI ライフサイクル] を選択するか、 [管理] > [CI ライフサイクル] を選択します。
重要情報	<p>このタブには削除候補の CI の数に関する情報が表示され、[エイジングの有効化] チェック・ボックスを選択した場合は、次の機能が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 削除対象の CI 数が 10,000 より多い場合、エイジング・メカニズムを使用して CI をチャンク単位で削除するか、データベース・エイジング・ツールを使用するかを選択できます。どの手順を使用するかについては、157 ページの「エイジングの最初の実行」を参照してください。 ▶ 削除する CI の数が 10,000 よりも少ない場合、予想削除時間が表示され、CI は直ちに削除されます。進行状況バーに、削除の段階が表示されます。
関連タスク	156 ページの「エイジング・メカニズムの有効化と実行」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。











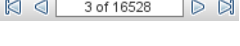
UI 要素	説明
エイジングの有効化	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エイジングを有効にするには、このチェック・ボックスを選択します。 頻度と、削除の候補としてマークされたチャンクのサイズは、インフラストラクチャ設定で決定します。詳細については、168 ページの「エイジングのパラメータ」を参照してください。 ▶ エイジングを無効にするには、このチェック・ボックスをクリアします。
実行結果	<p>削除する CI の合計：削除候補および、エイジング・メカニズムによって削除されようとしている CI または関係の数。</p> <p>削除済み：削除された CI または関係の数。</p> <p>失敗：削除できなかった CI または関係。削除に失敗した場合、詳細を表示するには [失敗] リンクをクリックします。</p>



[CI] タブと [関係] タブ

この領域では、削除候補の CI と関係のリストを表示し、そのリストを管理できます（特定の CI の削除、削除の予防または延期、統計情報の表示、リストのフィルタなど）。

利用方法	[管理] > [CI ライフサイクル] を選択します。
関連タスク	158 ページの「CI ライフサイクル・データの生成と結果のフィルタ」
関連情報	『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「CI を使った作業」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素	説明
	クリックすると、CI の削除が 1 エイジング期間延期されます。この CI または関係は削除候補のリストから消えます。（全エイジング期間において CI が再度検出されない場合、その CI は再度削除の候補になります。）
	クリックすると、CI または関係が削除されなくなります。この CI または関係は削除候補のリストから消えます。
	クリックすると、選択した CI または関係を削除できます。
	クリックすると、エイジング・メカニズムの最近 5 回の実行について、統計情報（各実行の開始時間と終了時間、削除された CI の数など）が表示されます。詳細については、161 ページの「[エイジング ステータス] タブ」を参照してください。
	クリックすると、現在のページ上のすべてのデータ行が選択またはクリアされます。
	クリックすると、表示されているデータが更新されます。
	クリックすると [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、フィルタをカスタマイズできます。詳細については、167 ページの「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	クリックすると、フィルタがクリアされ、完全な結果が表示されます。
	クリックすると、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、カラムの表示順序の変更、カラムの非表示、非表示のカラムの表示を行うことができます。詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』(PDF) の「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	矢印をクリックして、1 つの表示ページに表示される行数を定義できます。
	クリックすると、ページごとに結果を移動したり、または最初のページや最後のページに移動したりできます。

UI 要素	説明
	<p>選択した期間のデータを生成します。</p> <p>ヒント：結果が生成されない場合は、期間の終了日時を先に延ばしてください（終了フィールド）。</p>
	<p>[データをファイルにエクスポート] をクリックして、テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ XLS へエクスポート：テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls（Excel）ファイル形式に整形されます。 ▶ PDF へエクスポート：テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。 注：PDF にエクスポートする場合は、カラム数を適切な数に設定してレポートが読みやすくなるように表示します。 ▶ CSV へエクスポート：テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り（CSV）テキスト・ファイル形式に整形されます。 注：CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ（,）を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域オプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。 ▶ XML へエクスポート：テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。
<p><CI を右クリックする></p>	<p>メニュー・オプションの詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』（PDF）の「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。</p>
<p><カラム・ヘッダの右クリック></p>	<p>詳細については、『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』（PDF）の「カラム コンテンツの並べ替え」ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[CI] タブ / [関係] タブ	<p>選択すると、削除候補の CI または関係のリストが表示されます。</p> <p>選択 : 操作 (削除や削除の延期など) を実行する前に実行対象の CI または関係を選択するには、このチェック・ボックスを選択します。</p> <p>End1 : 関係の一方の端にあるクエリ・ノードです (関係にのみ適用)。</p> <p>表示ラベル : トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。</p> <p>End2 : 関係のもう一方の端にあるクエリ・ノードです (関係にのみ適用)。</p> <p>CI タイプ : CI または関係のタイプです。</p> <p>最終アクセス日時 : CI または関係が (DFM プロセスによって更新されたか検出されたかにかかわらず) 最後にアクセスされた時間です。</p> <p>更新元 : CI または関係を更新した管理者またはプロセス。</p> <p>実際の削除日時 : CI または関係が削除された日時です。</p>
開始	<p>矢印をクリックし、カレンダーを使用して、CI ライフサイクル結果の開始日時を選択します。</p>
[関係] タブ	<p>選択すると、関係のライフサイクルの結果が表示されます。</p>
ページの行数設定	<p>ドロップダウン・リストから 1 ページあたりの行数を選択します。</p>
終了	<p>矢印をクリックし、カレンダーを使用して、CI ライフサイクル結果の終了日時を選択します。</p>

[CI ライフサイクル] ページ

このページでは、エイジング・メカニズムを有効にし、実行できます。また、削除候補の CI と関係のリストを表示し、そのリストを管理できます（特定の CI の削除、削除の予防または延期、統計情報の表示、リストのフィルタなど）。


<p>利用方法</p>	<p>[管理] > [CI ライフサイクル] を選択します。</p>
<p>重要情報</p>	<p>[CI ライフサイクル] ページには次のタブがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エイジング ステータス : エイジング・メカニズムを有効にし、エイジングを実行するには、このタブを使用します。詳細については、161 ページの「[エイジング ステータス] タブ」を参照してください。 ▶ CI : 削除候補の CI のリストを表示するには、このタブを使用します。詳細については、162 ページの「[CI] タブと [関係] タブ」を参照してください。 ▶ 関係 : [CI] タブと同じ情報が表示されますが、End1 カラムと End2 カラムが追加されています。 <p>標準設定で表示されるタブは、エイジングが有効か無効かによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エイジングが有効な場合, [CI] タブが表示されます。 ▶ エイジングが無効な場合, [エイジング ステータス] タブが表示されます。
<p>関連タスク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 156 ページの「エイジング・メカニズムの有効化と実行」 ▶ 158 ページの「CI ライフサイクル・データの生成と結果のフィルタ」
<p>関連情報</p>	<p>『HP Universal CMDB モデリング・ガイド』の「CI を使った作業」</p>

[フィルタ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、削除の候補になっている CI のリストをフィルタできます。

説明	[CI ライフサイクル] ページの [フィルタ] をクリックします。
その他のタスク	158 ページの「CI ライフサイクル・データの生成と結果のフィルタ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素	説明
条件	[条件] カラムをクリックし、オプションを選択します。
表示名	[CI ライフサイクル] ページで、CI または関係に対して表示されるカラムです。
値	<p>選択した条件の値を設定するには、[値] カラムをクリックします。選択した条件に応じて、ドロップダウン・リストから値を選択するか、カレンダーから日時を選択するか、または省略記号ボタン  をクリックして編集ダイアログ・ボックスを開き、値を入力します。</p> <p>[条件] カラムで、条件として [類似] または [類似で大文字小文字を区別しない] を選択したときは、検索する文字列の前後にワイルドカード (%) を使用できます。</p> <p>注: 値を入力する前に、条件を選択する必要があります。</p>

エイジングのパラメータ

エイジングのパラメータは、インフラストラクチャ設定で定義します（**[管理]** > **[インフラストラクチャ設定マネージャ]** > **[エイジングの設定]**）。

- ▶ **エイジング・チャンク・サイズ**：エイジング・メカニズムに一度に送信される CI または関係の数。標準設定は 5,000 です。
- ▶ **最初の実行のエイジング・スケジューラ時間**：サーバの起動後にエイジングが最初に行われる時刻を定義します（たとえば、2 は午前 2 時です）。
- ▶ **エイジング・スケジューラ間隔**：エイジングの実行間隔を定義します。間隔の値は時間単位です。
- ▶ **エイジング時間単位**：削除候補期間および実際削除期間に適用できる時間単位。標準の単位は「日」です。
- ▶ **チャンク間のミリ秒単位の遅延**：エイジング・メカニズムによってチャンクが削除されてから、次にエイジング・メカニズムに送信されたチャンクが削除されるまでの間隔。標準設定値は 30 秒（30,000 ミリ秒）です。
- ▶ **ストレージの最適化の実行用のしきい値**：エイジング操作中に、記憶装置の最適化を実行するためのしきい値です（CI が N 個削除されるたびに実行、など）。データベース操作には時間がかかる（数分間）可能性があるため、このオプションによって、スキーマ担当の技術組織は時間を短縮できます。

第 V 部

HP Universal CMDB 用語集

13

用語集

本章では、マニュアルで使用される用語について説明します。

CI の選択

さまざまなアプリケーションで、CI ビュー内での表示、管理、検索に使用されるツール。

CMS

複数 CMDB のソリューションで構成管理を行う、中心的な CMDB サーバおよび権限。

configuration item (構成アイテム) (CI)

システムの物理エンティティまたは論理エンティティを表す、CMDB のコンポーネント。たとえば、構成アイテム (CI) はハードウェア、ソフトウェア、サービス、ビジネス・プロセスなどを表します。CI は、ユーザの組織の IT 環境における依存関係に基づいて階層化されます。

configuration item type (構成アイテム・タイプ) (CIT)

各構成アイテム (CI) のカテゴリ。各構成アイテム (CI) のカテゴリ。各構成アイテム・タイプ (CIT) は、CI およびその関連プロパティを作成するためのテンプレートとなります。

Data Flow Probe

HP Universal CMDB サーバからのタスクを要求、実行し、結果を CMDB に返す、データ・フローのメイン・コンポーネント。プローブは、プローブ・ゲートウェイとプローブ・マネージャという 2 つのコンポーネントで構成されます。プローブ・ゲートウェイは、タスクのダウンロードやタスク結果を返すなどのプロセスにおいて、プローブ・マネージャと CMDB 間の通信 (http または https) を行います。またプローブ・マネージャは、CMDB が渡すタスクを実行します。プローブ・ゲートウェイは RMI を使用してプローブ・マネージャと通信します。1 つのプローブ・ゲートウェイは複数のプローブ・マネージャに接続できます。標準設定では、プローブ・マネージャとプローブ・ゲートウェイは 1 つのプロセスとして実行されます。

Data Flow Probe 設定

プローブと資格情報を設定するアプリケーション・モジュール。

Data Flow Probe ステータス

プローブで実行されているすべてのアクティブなジョブに関して、現在の情報を表示するアプリケーション・モジュール。

external class (外部クラス)

HP Universal CMDB データ・モデルで定義されたクラス。そのインスタンスは、HP Universal CMDB ではなく外部データ・リポジトリに格納されます。

HP Business Service Management

ビジネスの観点からのパフォーマンスと可用性のリアルタイム監視、サービス・レベル管理、エンド・ユーザ管理、システム可用性管理、カスタム・レポート生成のための HP のソリューション。

inheritance relationship (継承関係)

親 CIT の属性と振る舞い (label 関数など) を継承する CIT。

IT ユニバース・モデル

CMDB の一部。CI と、CI 間の関係を格納します。IT ユニバース・モデルは、ユーザの組織の IT 環境を表すよう階層化されます。

JMX コンソール

アクティブかつ登録された全 MBean の操作とプロパティを、HTML 操作を使った Web インタフェースで表示したポータル。

mapping engine (マッピング・エンジン)

仮想リンクで接続された異なるデータ・リポジトリの CI 同士を接続する、連携フロー中のコンポーネント。標準設定では、UCMDB 調整エンジンを使って接続が行われます。

modeling (モデリング)

サーバ、ネットワーク、ストレージ、ソフトウェア、および論理要素（ビジネス・サービス、VPN、およびエンド・ユーザなど）の間の複雑な関係をマッピングするプロセス。

multinode (マルチノード)

調整のためにアダプタ内で定義されている擬似エンティティ。たとえば、調整が host CI によって行われる場合、host マルチノードが定義され、調整に使用されるすべてのフィールドはデータベース内のカラムにマップされます。

package (パッケージ)

ある基準に従って定義されたリソースのサブセット。論理的にグループ化されており、コンテンツを CMDB に追加するために使用されます。このコンテンツには、IT インフラストラクチャのディスカバリ、インテグレーション、CIT、ビューなどが含まれます。

Package Manager (パッケージ・マネージャ)

エクスポート、インポート、削除などのリソース操作に対するシステム要求やユーザを配送するアプリケーション・モジュール。パッケージの一部またはすべてのリソースをローカル・ディレクトリから CMDB にデプロイするとともに、パッケージ・マネージャでパッケージの一部またはすべてのリソースをローカル・ディレクトリにエクスポートできます。

pattern view (パターン・ビュー)

トポロジ・クエリ言語 (TQL) クエリを定義することによって、CMDB に対するクエリを実行できます。

perspective (パースペクティブ)

Modeling Studio を使用するビューに基づくパースペクティブを作成するために、モデルまたは CI のコレクションに適用されるパターン。

reconciliation (調整)

一般的な命名スキーマに解決,あるいはレコード内のデータの重複する差異を 1 つの回答に解決することによって,データの競合を解決するプロセス。調整には 2 つの段階があります。1 つ目は CMDB に入力されるデータに基づいた CI と関係の識別で,2 つ目はデータの競合時に,検出されたデータのうちどれが信頼できるかを決定すること(調整優先度)です。

subgraph (サブグラフ)

特定の CI に関連した追加の TQL クエリ・データを表すグラフ。

topology

CI および CI 間の関係を説明する TQL 結果(グラフ結果)。

Topology Query Language (TQL) (トポロジ・クエリ言語)

IT インフラストラクチャ・データを検出,編成,管理する言語およびツール。TQL を使って,CMDB から特定のデータを取得し,グラフィック表示するクエリを作成します。これは,CI 間の概念上の関係を取得し,IT インフラストラクチャ・リソースの視覚的イメージを作成できる言語です。

view (ビュー)

アイコンで表示される CI と関係の集合。こうした CI と関係は,CMDB に対する TQL クエリの結果であり,これらに割り当てられた表示ルールおよび構成ルールに従ってビューとして表示されます。各 CI/ 関係は,複数のビューに表示したり,異なるビュー・レイヤで複数のアイコンによって表示したりできます。

virtual relationship (仮想関係)

異なるデータ・リポジトリにある 2 つのグラフ・ノード間の関係。これらの関係のインスタンスは,どのデータ・リポジトリにも存在せず,TQL 計算時に作成されます。

アダプタ

リモート・システム内のデータ (Universal CMDB データベースには保存されないデータ) の取得または更新を行う、CMDB 内のエンティティ。アダプタは特定のデータのモデリング方法を検出し、リポジトリと通信するためのベンダ固有プロトコルを識別します。インテグレーションの設定 (インテグレーション・アダプタ) やディスカバリ・タスクの実行 (ディスカバリ・アダプタ) にアダプタを使用できます。

アップグレード

HP Universal CMDB では、ユーザのシステムや操作の中断を可能な限り最小限に抑えながら、プラットフォームを最新バージョンにアップグレードするための手順と推奨事項をご用意しています。詳細については、『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(PDF) を参照してください。

アダプタ管理

ディスカバリの実行やインテグレーションの設定に必要なアダプタを管理するアプリケーション・モジュール。

インテグレーション・アダプタ

CMDB と外部データ・リポジトリの間で、CI と関係を統合するために使用するアダプタ。利用可能なインテグレーション・フローは、ポピュレーション、連携、データ・プッシュです。

階層ルール

ビューの階層は、選択した CI を異なるレベル (レイヤ) で表示することによって、トポロジ・マップ内の CI の組織構造を示します。階層ルールを定義しなかった場合、トポロジ・マップでは、クエリ結果に含まれるすべての CI が 1 つのレベルで表示されます。たとえば、クエリ結果に CI とその子が含まれる場合、トポロジ・マップではどちらの CI も同じレイヤで表示されます。

強化

セキュリティ強化のガイドラインでは、より安全な (セキュリティ強化された) HP Universal CMDB プラットフォームの実装に必要な設定情報が規定されています。このガイドラインの詳細については、『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(PDF) を参照してください。

グローバル ID

CMS が生成する一意の CI ID。システム全体で CI を識別するために用い、複数の CMDB 環境下で作業を行う際に役立ちます。

計算された関係

計算された関係は、パスが、CI タイプ・マネージャでベースにしているトリプレットに対して定義された条件を満たしている、ソース CI とターゲット CI の間の接続を表します。計算された関係の方向は、CI タイプ・モデルから得られる物理的な関係の方向と必ずしも同じであるとは限りません。CI タイプ・モデルのほかの関係と同様、計算された関係を使用して TQL クエリを作成できます。これにより、計算された関係を基にしてエンリッチメント・ルール、影響分析ルール、およびビューを作成できるようになります。

構成アイテム・タイプ・マネージャ

CI タイプ・モデルの情報を表示できます。この情報には、システムで定義されたすべての構成アイテム・タイプ (CIT) および CIT 間の接続を定義する関係に関する定義が含まれています。それぞれの CIT には独自の属性に加えて、親 CIT から継承した属性もあります。

構成管理データベース (CMDB)

HP Universal CMDB の主要な情報リポジトリ。CMDB は、CI と関係として、インフラストラクチャ情報を格納、処理します。

資格情報

ユーザが使用するユーザ名およびパスワード。データ・フロー管理がリモート・システムに接続する際に必要です。

システムの状況

HP Universal CMDB サーバ、データ・プロセッサ、ロード・バランサ、データ・コレクタ、およびそれらを実行しているサービスに対して、パフォーマンスや可用性の統計情報の表示、そして負荷の管理を管理者が行うためのアプリケーション。

ジョブ実行ポリシー

ディスカバリ・ジョブをいつ実行できるかを定義した一連のパラメータ。

データ・フロー

情報の流れ。CMDB へ流れ込む方向と外部リポジトリへ流れ出す方向があります。

データ・フロー管理

データ・フローを制御するために CMDB が持つ管理機能。

データ・プッシュ

データ・プッシュというタイプのデータ・フローは、CMDB から外部システムへ外向きに情報を送信します。

データ・ソース

UCMDB データ・ソースは、UCMDB TQL エンジンで利用可能な情報のソースを表します。データ・ソースは、CMDB そのもの（ディスカバリやインテグレーションで CMDB 内にポピュレートした全データを含む）、または連携タイプのあらゆるインテグレーションのどちらも使用できます。

ディスカバリ

システム上にある IT インフラストラクチャのリソースとその相互依存関係に関する情報を収集するメカニズム。

ディスカバリ・アダプタ

システム上にある IT インフラストラクチャのリソースとその相互依存関係に関する情報を収集するために、データ・フロー管理が利用するアダプタ。

ディスカバリ・コントロール・パネル

ディスカバリ・プロセスを制御するために使用するアプリケーション・モジュール。ディスカバリ・コントロール・パネルを使用すると、アクティブにするディスカバリ・ジョブの選択や、実行しているディスカバリ・プロセスの追跡を行えます。

ディスカバリ・ジョブ

ディスカバリ・ジョブはディスカバリ・アダプタをベースにしており、パラメータやスケジュール情報、トリガ TQL の割り当てを上書きすることがあります。すべてのカスタマイズがジョブに含まれているため、1 つのアダプタをさまざまなスケジュールとパラメータに使用できます。

ディスカバリ・ジョブ実行ポリシー

ディスカバリ・ジョブをいつ実行できるかを定義した一連のパラメータ。

ディスカバリ・モジュール

あるテクノロジーまたはアプリケーションのディスカバリを行う、1 つ以上のディスカバリ・ジョブ。

ディスカバリ・プロトコル

SNMP, WMI, SSH, Telnet などのリモート・システムとの接続を確立するために使用される、通信の資格情報。

統合

UCMDB インテグレーションは、CMDB からほかの外部システムへ（データ・プッシュ）、または外部システムから CMDB へ（ポピュレーションまたは連携）、データ・フローの設定を行います。

ドメイン

各 IP アドレスが固有である顧客のサイトの論理的用語。つまり、各ドメインには一意の IP アドレスが含まれる必要があります。ドメインには 2 種類あります。1 つは**カスタマ**・ドメインで、プライベート IP アドレスを含む特定のカスタマ・サイト用です。もう 1 つは**外部**ドメインで、カスタマ・サイトに含まれないすべての IP アドレスを含むインターネット（パブリック）・ドメインに使用します。

トリガ CI

ディスカバリ・ジョブからタスクを作成するトリガとして使用する CI（または CI のセット）。

トリガ・ノード

ノードは、影響分析マネージャでトリガ・ノードとして定義できます。影響分析マネージャを使用して、インフラストラクチャで変更を行ったときにシステムに及ぼす影響をシミュレートできます。トリガ・ノードとして定義されたノードは、根本原因ノードまたはシステムに行う変更を表すノードです。

トリガ TQL

ディスカバリ・ジョブに割り当てられ、トリガ CI をそのジョブに追加するプロセスを自動化する TQL クエリ。

トリプレット

subgraph（サブグラフ）の定義、複合関係、または計算された関係の作成時に、ソース CI からターゲット CI につながる、トポロジ・グラフのパスに許可されている手順。

パッケージ・リポジトリ

パッケージとそのリソースは、*deployedpackage* と *deployedresource* という CI タイプのインスタンスとして、CMDB 内にモデリングされます。

パッケージ・リソース

HP Universal CMDB で利用可能なエンティティは、CI タイプ、TQL クエリ、ビュー、レポート、影響ルール、ディスカバリ・ジョブ、アダプタ、スケジュールです。

パッケージ・サブシステム

パッケージ・マネージャにおけるサブシステムとは、リソースの論理タイプを指します (クラス・モデル、データ・モデル、ビュー、タイプの定義、ディスカバリ・ジョブなど)。

ヒューズ

システム中のさまざまな操作に対して定義された制限。

フェデレート・データ・ソース

UCMDB がデータの連携元として利用できる、外部のデータ・リポジトリ。フェデレート・データ・ソースは、**Integration Studio** でインテグレーション・ポイントのタイプを連携に設定することによって作成します。

複合関係

トポロジ・グラフ内のパスを表します。複合関係を使うと、許容される手順をソース CI とターゲット CI の間のパスで定義できます。

プロトコル

SNMP, WMI, SSH, Telnet などのリモート・システムとの接続を確立するために使用される、通信の資格情報。

ポピュレーション

ポピュレーションというタイプのデータ・フローは、CMDB 内で保持および管理される CI と関係として、ほかの外部システムから情報をポピュレートします。

マッピング・ファイル

UCMDB のインテグレーションで、UCMDB の CI および関係タイプをターゲット・データ・ストアの CI および関係タイプにマップするために使用する XML ファイル。

モジュール

あるテクノロジーまたはアプリケーションのディスカバリを行う、1 つ以上のディスカバリ・ジョブ。

リソース

HP Universal CMDB によって検出, 管理される, アプリケーション, データベース, ネットワーク・デバイス (ハードウェアおよびソフトウェア), およびサーバ。

連携

データを外部データ・ソースから取得する, CMDB の一機能。データは CMDB 内ではなく, 外部データ・ソースに格納されます。データが要求されるたびにすぐ, UCMDB が外部データ・ソースから CMDB へデータを渡します。

索引

A

Active Directory
LDAP の設定 146

C

CI ライフサイクル
エイジング 153
[エイジング ステータス] タブ 161
および関係 162
概要 154
結果のフィルタ 158
データの生成 158
[フィルタ] ダイアログ・ボックス 167
ページ 166

CI タイプ・ログ 25

CMDB

DAL ログ 29
エンリッチメント・ログ 28
監査簡略ログ 27
概念 19
操作統計ログ 30
通知ログ 26
プラグイン・ログ 29
ログ・ファイル 24

D

Data Flow Probe
検出 159
負荷分散 159

G

glossary 171

H

HP ソフトウェアの Web サイト 16
HP ソフトウェアのサポート Web サイト 15

J

Java
ログイン中のインストール 43
JMX コンソール
パッケージのアンデプロイ 63
パッケージのエクスポート 64
パッケージのデプロイ 62, 64

L

LDAP
Active Directory の設定 146
LDAP Manager
概要 142
ユーザ・グループの同期 143
LDAP マッピング
ユーザ・インタフェース 148

P

Package Manager (パッケージ・マネージャ)
[エクスポートパッケージ] ダイアロ
グ・ボックス 78
[エクスポートするリソースを選択] ダイ
アログ・ボックス 72
[カスタム パッケージ作成ウィザード]
および [パッケージを編集] ウィ
ザード 73
[検索] ダイアログ・ボックス 80
[フィルタ] ダイアログ・ボックス 79
ページ 81
ユーザ・インタフェース 71

索引

R

Readme 12

あ

[アクション定義] ダイアログ・ボックス
スケジューラ 98

アクセス権
割り当て 127

アダプタ
パッケージ 57

い

インフラストラクチャ設定
概要 48
[標準設定値の変更] ダイアログ・ボッ
クス 49
ページ 49

え

エイジング
および CI ライフサイクル 153
概要 153
パラメータ 168
[エイジング ステータス] タブ
[CI ライフサイクル] ウィンドウ 161
[エイジング実行の統計] ダイアログ・ボック
ス 160
[エクスポート パッケージ] ダイアログ・ボッ
クス
Package Manager (パッケージ・マ
ネージャ) 78
[エクスポートするリソースを選択] ダイアロ
グ・ボックス
Package Manager (パッケージ・マ
ネージャ) 72

お

オンライン・ドキュメント 12
オンライン・ブック 13
オンライン・ヘルプ 13
オンライン・リソース 15

か

[カスタム パッケージ作成ウィザード] および
[パッケージを編集] ウィザード
Package Manager (パッケージ・マ
ネージャ) 73
画面キャプチャ・ツール 33

く

クエリ・ノードと関係 21

け

[検索] ダイアログ・ボックス
Package Manager (パッケージ・マ
ネージャ) 80

こ

更新, ドキュメント 16
構成アイテム 21

し

新機能 13
[新規ユーザの追加] ウィザード
[ユーザ詳細] ページ 114
[ロール リスト] ページ 115
[新規パッケージを作成] ウィザードおよび [パ
ッケージを編集] ウィザード
[選択サマリ] ページ 78
[パッケージのプロパティ] ページ 73
[リソースの選択] ページ 74
[新規ユーザの追加] ウィザード 113
[ユーザ名およびパスワード] ページ
113
[時間を選択] ダイアログ・ボックス
スケジューラ 106
受信者マネージャ
概要 136
電子メール受信者の定義 137
ページ 138
ユーザ・インタフェース 137
状態マネージャ
概要 90
ダイアログ・ボックス 92
ユーザ・インタフェース 92

- [ジョブ スケジューラ] ページ
スケジューラ 104
- [ジョブ定義] ダイアログ・ボックス
スケジューラ 100

す

- スケジューラ
 - [アクション定義] ダイアログ・ボックス 98
 - [時間を選択] ダイアログ・ボックス 106
 - [ジョブ スケジューラ] ページ 104
 - [ジョブ定義] ダイアログ・ボックス 100
 - 定期的に行うタスクの定義 96
 - [必要な日数を追加] ダイアログ・ボックス 105
 - [フィルタ] ダイアログ・ボックス 99
 - ユーザ・インタフェース 96
- ステータス・バー 39
- スレッド・ダンプ
 - zip ファイルによるダウンロード 22
 - 場所 22

せ

- セキュリティ
 - セットアップ 127
- セキュリティ・マネージャ 125, 128
 - 概要 126
 - ページ 130
- [選択サマリ] ページ
 - [新規パッケージを作成] ウィザードおよび [パッケージを編集] ウィザード 78
 - [パッケージリソースをアンデプロイ] ウィザード 86

そ

- 属性の状態
定義 91

た

- タスク
 - スケジューラで定期的に行う 96

て

- ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パック
インストール 60
- データ・フロー管理
 - サーバで実行されるログ 30
- 電子メール受信者
 - 受信者マネージャの定義 137

と

- トラブルシューティングとナレッジ ベース 15
- ドキュメント, オンライン 12
- ドキュメントの更新 16

な

- ナレッジ ベース 15

は

- パスワード
 - ユーザに対しての変更 111
- [パスワードのリセット] ダイアログ・ボックス 116
- パッケージ
 - JMX コンソールを使用したアンデプロイ 63
 - JMX コンソールを使用したエクスポート 64
 - JMX コンソールをしようしたでぶろい 62
 - JMX コンソールを使用したデプロイの表示 64
 - インテグレーション・アダプタ 57
 - エクスポート 60
 - 管理の概要 54
 - 作成 58
 - ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・パックのインストール 60

索引

- デプロイ 59
- トラブルシューティングと制限事項 87
- 内容と形式 56
- リソース 66
- [パッケージリソースをアンデプロイ] ウィザード 85
 - [選択サマリ] ページ 86
- [パッケージのプロパティ] ページ
 - [新規パッケージを作成] ウィザードおよび [パッケージを編集] ウィザード 73
- [パッケージリソースをアンデプロイ] ウィザード
 - [リソースの削除] ページ 85

ひ

- [必要な日数を追加] ダイアログ・ボックス スケジューラ 105
- [標準設定値の変更] ダイアログ・ボックス
 - [インフラストラクチャ設定] ページ 49

ふ

- [フィルタ] ダイアログ・ボックス
 - CI ライフサイクル 167
 - Package Manager (パッケージ・マネージャ) 79
 - スケジューラ 99

め

- [メール受信者を追加] ダイアログ・ボックス 138

ゆ

- ユーザ
 - 定義 111
 - ユーザ・インタフェース 128
- [ユーザ詳細] ページ
 - [新規ユーザの追加] ウィザード 114
- ユーザとロール
 - 概要 110
 - トラブルシューティングと制限事項 120

- [ユーザ] タブ 119
- ユーザ・プリファレンス
 - 定義 123
- ユーザ・プロファイル
 - 概要 122
 - ページ 124
- [ユーザ名およびパスワード] ページ
 - [新規ユーザの追加] ウィザード 113

り

- [リソースの削除] ページ
 - [パッケージリソースをアンデプロイ] ウィザード 85
- [リソースの選択] ページ
 - [新規パッケージを作成] ウィザードおよび [パッケージを編集] ウィザード 74
- 履歴データベース・ログ 27

ろ

- ロール
 - 定義 111
- [ロール] ダイアログ・ボックス 115
- [ロールとユーザの選択] ダイアログ・ボックス 128
- [ロール] ページ 117
- [ロールリスト] ページ
 - [新規ユーザの追加] ウィザード 115
- ログ 24
 - zip ファイルによるダウンロード 22
 - クォータ・ログのパラメータ 24
 - サーバで実行される DFM 30
 - 重大度レベル 32
 - ログ・レベルの変更 33
- ログイン
 - Java のインストール 43
 - トラブルシューティング 41, 42
- [ログ設定] ダイアログ・ボックス 38
- ログ・レベル
 - 設定 22